

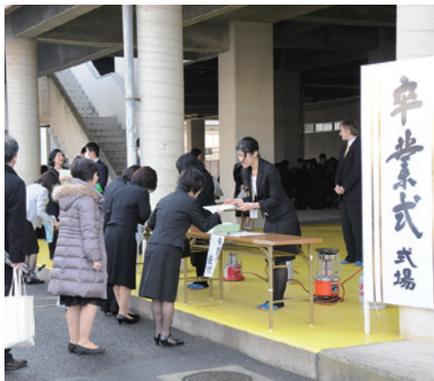
金 光 学 園

やっ なみ

2014. 3



238 号



卒業式



スーパーサイエンスハイスクール校としての活動

金光学園中学・高等学校がSSHに指定され、3年を終えようとしています。この秋に「中間評価」を終え、2月24日に報道発表がありました。「現段階では、当初の計画通り研究開発のねらいをおおむね達成している」との評価でした。これまで取り組んできたことが評価されたものでした。と、同時にいくつかの宿題もいただきました。引き続き、真摯に取り組んでいきたいと思っています。

さて、本校のSSHの目玉のひとつに、3月に行う「SSHにおける『国際化』の取組についての発表会」があります。課題研究の成果を英語ポスターにまとめ、多数の留学生等を招いて行うオールイングリッシュの発表会です。平成24年度に初めて行い、外部からも高い評価をいただいています。本校では、「コミュニケーション力」を図1のように考えています。

どんなに素晴らしい成果も、人に伝えなければ何にもなりません。また、人に伝えることによって新たなアイデアや、アドバイスを得ることができます。グローバル化が進む昨今、その手段は、「英語」であることが求められるようになってきています。この発表会は、「ポスター発表会」という形式をとることによって、参加者と近い距離で、ディスカッションしやすい環境を目指しています。

平成24年度は、校内からの発表を10本に絞ったりもしましたが、平成25年度の発表会は、理系探究クラスで取り組んだすべての課題研究に加え、科学系部活動から中学3年生を中心に発表を行いました。また、外部からも8校20本の参加、合計49本のポスターの並ぶ、盛大な会になりました。

浅口市・里庄町のALTの先生方をはじめ、県内外の大学に留学している24ヶ国、約75名の留学生、大学等から28名の助言者の先生をお迎えし、合計100名を超える方々に英語で質疑応答に参加していただきました。

保護者の方にも多数参観いただき、誠に有難うございました。御礼申し上げます。



(H24年度の大会の様子)

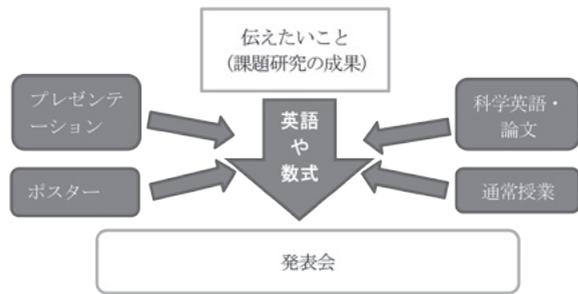


図1

聞き上手

学生の頃、コミュニケーションがうまくならないと思うなら、「聞き上手」になりなさいと教わりました。たいていの人は、「話し上手」になればコミュニケーションがうまくいくと思うのではないのでしょうか。

少し前になりますが、阿川佐知子さんの著書「聞く力」が120万部を突破したと聞き、思わず読みました。これまでいかに人の話をいい加減に聞いていたか反省させられました。インタビュ어가苦手だった阿川さんが1000人近い人に会い、30回以上のお見合いでつかんだコミュニケーション術を赤裸々に披露しています。「聞く力」の要諦とも言うべき心を開く35のヒントをわかりやすく、語りかけるように書かれています。私の心に残っているヒントがいくつかあります。

一つ目は、相槌の極意。「うんうん、そうかそうか、それで？」と相槌を打ったり、話をしたりするだけという会話を紹介しています。二つ目は、相手を見ること。人と会話をしている時は、相手の目を見るのが礼儀だと書いてあります。聞き上手になるということは、自分の話を真剣に聞いてくれると相手から信頼されたり、また人の話を聞いたりすることで情報が集まるなど良いことがたくさんあるように思います。メール、LINEなどといった便利なツールがたくさんありますが、面と向かっての会話を大切に、ぜひ「聞き上手」になって素敵な人間関係を築いていきたいです。

中嶋 麻偉子

(金光学園やつなみ保護者会 監事)

目次

巻頭言	1
第66回高校卒業式	2
道(9)	26
学園生の故郷	28
活躍する卒業生：岡本(旧姓)遠藤 寛子	30
やつなみ保護者会のページ	32
学園随想(7)：森下 美穂	34
メタセコイヤ	36
活躍おめでとう	37
ある日のホームルーム	38
A F S 留学生紹介	40
中一合唱コンクール	41
中二学年集会	44
探究授業報告	48
生徒入賞作品	50
生徒会活動	56
会報	63
学園だより	64
教室の窓から	66
編集後記	

第66回高校卒業式

式辞

校長 金光 道晴



ここ数日は厳しかった寒さもすっかりやわらぎ、本日、早春の穏やかなお日の中で、金光学園高等学校第66回卒業式を麗しく挙行させていただけることは、誠に有り難いことであります。ご来賓の皆様方には、公私ともご多用の中ご臨席を賜り誠にありがとうございます。また

平素から学園教育にご協力と、お祈り添えたいだけしておりますことに心から御礼を申し上げます。

保護者の皆様には、本日は誠におめでとうございます。お子様が3年ないし6年前、真新しい制服に身を包み入学してこられたのも、ついこの前のように思われます。保護者の皆様には、こうしてお子様が無事学園生活を終えて、今日の卒業式に臨まれることを感無量の思いでお迎えになられていることと存じます。改めまして入学以来、今日まで様々な面でご協力をいただけてまいりましたことに心からの御礼を申し上げます。

さて、214名の卒業生の皆さん、本日は卒業おめでとうございます。今朝は学園生として最後の金光教本部広前への参拝をし、代表の小田梨沙さんがこれまでの御礼とこれからのお願いのお届をさせて

いただき、教主金光様からは「本日は、おめでとうございます。ただ今、代表の方をお願いされましたように、これからも学園生活で培われたものを大切に、皆さんそれぞれの進路に向かって、世話になるすべてに礼をいう心をもって進んでいかれますよう、祈つてやみません。」とお言葉を頂戴いたしました。

そして先ほどは卒業証書を受け取られ、めでたく高等学校第66回卒業生になられたわけでありませう。

私は、皆さんがそれぞれこの学園生活の中で、多くのことを学ばれ、成長し、そして今後の人生への礎をしっかりと築いてこられたことを確信しています。勉強はもとより、健康な体、大切な友、そして何より、人として大切な心を身につけることができたと思っています。

3年とか6年という年月は、長い人生の中ではわずかな時間かもしれないかもしれません。しかしその間には楽しいことや嬉しいことばかりではなく、苦しいことや辛いこともあったと思います。それら乗り越えて、今日の卒業式の日を迎えられたのでありますが、皆さんの中には受験などと思うような結果が得られず、今なお自

分の中で迷ったり、悩んだりしている人もいるかもしれません。また、卒業の喜びの中に友達や後輩たち、そして先生方との別れを辛く寂しく思っている人も多いのではないのでしょうか。

しかし、皆さんのこれからの長い人生では、様々な試練や、解決が容易ではない問題に直面することがあると思います。

そこで、私は卒業にあたり、最後の「宗教の時間」のつもりで、学園を巣立っていく皆さんが、これから先「どんな困難なことにもくじけず、夢や目標を持って諦めずに歩んでいって欲しい」という願いから、いくつかの話をさせていただきたいと思っています。

その話の一つはオリンピックでの日本人の頑張り、大変感動したことでありませう。皆さんもきっとそうだったと思います。ソチオリンピックは、今週のはじめの閉会式で幕を閉じましたが、私は出場した選手たちが、自分にかけられた大きな期待を背負い、プレッシャーの中で、一所懸命頑張っている姿にとても感動しましたし、心からの声援を送りたいと思いました。10代の若い選手達の活躍や、頑張りも大変素晴らしいですが、私

卒業式の概要

2月28日朝8時5分、卒業生214名は、金光教本部広前に学園生徒として最後の参拝をし、小田梨沙さんが卒業のお礼と新しい生活へ向けての決意を代表でお届けした。

第1部の式は、ほつま体育館にて10時に開式。金光学園歌斉唱の後、各クラス担任より卒業生が紹介され、金光道晴校長より総代の村山晃三さんに卒業証書が授与された。続いて、校長式辞の後、佐藤乃武雄理事長より記念品として金光教教典抄「天地は語る」と前金光教教主のお筆になる学園の合言葉の色紙が総代の藤井なり美さんに贈られた。さらに、金光教教務総長 岡成敏正氏(代理) 教務理事 安武秀信氏)の挨拶、浅口市長 栗山康彦氏による来賓祝辞、送辞、答辞と続き、最後に「蛍の光」を斉唱して第

1部は閉会した。

第2部の祝宴は、小体育館に席を移して行われた。ほつま同窓会会長の山本雅夫氏から同窓会入会の歓迎の言葉、卒業生保護者代表の松本一郎氏より記念品目録贈呈(小体育館の音響設備一式)、2代校長佐藤金造先生作詞の「若き人よ」の斉唱の後、お祝いとして、音楽部コーラスが「いちばん近くに」を、吹奏楽団が「ハリウッド万歳」を、卒業生の部員も交えて演奏した。瀬尾光正君の先唱で食前訓を唱え会食。歓談の後、やつなみ保護者会会長の中谷庄吾氏のお祝いの言葉があり、6年間の学園生活を振り返る「あしあと」が高3学年団の宰相夕佳・佐藤佳・石井秀典の各先生の司会で進められた。写真とナレーションで入学式、キャンプ、修学旅行、ほつま祭、体育会などの楽しかった日々を思い返した。最後には学年団からの「空より高く」の演奏のサプライズも加わった。終わりに、保護者代表の田淵弘子氏、卒業生代表の松田和洋さん、学校代表の佐藤正俊副校長よりそれぞれ謝辞が述べられ、拍手に送られて卒業生は学園を巣立った。

が最も感動したのはスキージャンプの41歳の葛西選手の頑張りでした。一九九二年のフランス、アルペールビル大会出場から22年目、7回目のオリンピックで、個人としては初の銀メダルに輝きました。

過去の悔しい思いを重ねた7度目の正直。その間「もう勝てないんじゃないか」とか、トレーニング中にも「こんなことをしていても何になるのか」と思ったことも何度もあったという話を知りました。

3年前の東日本大震災が起きた時、葛西選手はヨーロッパ遠征中だったそうですが、「何か出来ることはないか」と帰国後他の選手に呼びかけて、札幌で募金活動を始めました。そして福島県の飯館村の子供たちの「自分たちは日本から捨てられているみたい」という言葉を聞いて、その募金を持って支援に村を訪れました。その後もずっと支援を続けられており、彼らに「希望とあきらめない気持ちを伝えたい」と毎年長野で行われるサマージャンプ大会にも子供たちを招待しているのです。そして彼は「その飯館村の子供たちにもメダルを取って元気を与えたかった」というのです。

張ろうと続けてきた」と言うのです。

そして今、彼女は「プレッシャーは感じるが、10年後、100年後の人類社会への貢献を意識して進みたい」と言っています。逆境や困難な状況の中で、それを乗り越えて、夢や目標に向かって頑張る姿勢には心からの拍手を送りたいと思います。

金光教の教祖様は「辛抱」することの大切さを説かれ、「何事も辛抱が大切である。辛抱が弱くてはおかげが受けられない。辛抱しないで辛せを得た者は、あまりいいない」「辛抱していかなければ、辛せになれない」と言われ、困難なことや悪いことが起こってきても「信心していても、よいことばかりではない。悪いこともある。手にでも表と裏があるようなもので、裏の出た時には、早く表の出るようおかげを受けよ」とおっしゃってられます。

みなさんはこれから、大学や社会に出て行くわけですが、これからの生活は、これまでのようないつも温かい支援や援助のあるものではないかもしれません。苦しい時も、悲しい時も、一人で抱え込むのではなく、多くの人たちに祈られ、支えられていることを忘れないで下さい。

今回のソチで、葛西選手はやつと念願のメダルを獲得したにもかかわらず、「新たに、金メダルという目標ができた」と40歳を超えて、さらに夢に向かって頑張っていることとしてるのは素晴らしいと思います。ジャンプ団体での銅メダルの彼の涙もメンバーが病氣や怪我に苦しみながら、強い思いを持ってそれを乗り越えてのメダル獲得であったからこそ、あの涙があったのだということを知りました。

このオリンピックで結果を出した人も、それが出来なかった人も、大きな感動を与えてくれ、夢や目標を持って頑張っていくことの素晴らしさを教えてくれました。

もう一つはちょうど1か月前に小保方晴子さんのSTAP細胞作製というニュースが、日本だけでなく、世界を驚かせたのは記憶に新しいと思います。その科学的成果はもちろんですが、私は、彼女の人物にとっても感心させられました。「コミュニケーション能力が高く、周りの人達の協力を得ながら研究を進める」姿勢や、「やると決めたらやり切る芯の強い性格である」ことも伝えられていましたが、一方で他の研究者や、科学

どうぞ、どんな困難なことや壁につきあたっても、「母校の心」や「合言葉」の精神を忘れずに、そして賜った尊い命を大切に、目標や夢に向かって、あきらめず力強く、その命を輝かせて進んでいってください。皆さんのご健勝とご多幸を心からお祈りしています。

最後に合言葉「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」これです。式辞を終わります。

送 辞

在校生代表 大本 京未



頬に触れる風は日に日に暖かさを増し、柔らかな日差しに春の訪れが感じら



雑誌中で「細胞生物学の歴史を愚弄している」と言われるなど、悲しくて、悔しくて「やめてやろ」と思った日も、泣き明かした夜も数知れず、今日一日だけは頑

れるようになりました。今日の佳き日に卒業を迎えられた先輩方、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。先輩方とお別れる時が、こんなに早く来るとは、信じられないような気持ちと共に寂しさが込みあげてきます。それは、学校生活における先輩方の存在感の大きさゆえと、改めて実感しています。今日晴れてご卒業される先輩方にとって3年間の学園生活はどのようなものであったでしょうか。きっと勉強や部活動などで忙しくても、充実した日々を過ごされたことと思います。学習面では、探究活動において川ゼミが日本学生科学賞の優秀賞、そして横浜でのSSH全国大会では、数学ゼミがポスター発表最優秀賞を受賞されるなど積極的に活動し、大変活躍されました。また先輩方は自らの進路を実現するために、自習室などを利用して毎日遅くまで勉強されていました。私たちはその姿から現実の厳しさと目標に向かって努力することの尊さや、勉強することの大切さを教わりました。在校生一同先輩方を見習い、これからも一層勉学に励んでいきたいと思えます。

ほつま祭では1年生の時に展示の部で1位、2位を獲得され、2年生の時に展示の部で1位を、演技の部では上位3位までを独占されました。見る人を夢中にさせる魅力的な展示や、工夫を凝らした演出・演技で、どのクラスも素晴らしい結果を残されました。また今年度の模擬店では、どの店もユニークでバラエティに富んだメニューを工夫され、より一層ほつま祭を盛り上げてくださいました。体育会では毎年、白熱した競技や応援が繰り広げられましたが、特に今年度は、先輩方のひたむきになんばる姿勢と強い団結力に、圧倒されるばかりでした。私たちは、先輩方の行事に取り組む時のバイタリテイ溢れる行動力やアイデアといったの取り組みを引き継ぎ、学園精神と伝統をしっかり守って行きたいと思えます。

また、先輩方は部活動でもたいへん活躍されました。運動部では、卓球部の井上全悠先輩が全国大会で優勝、国際大会でも3位に入賞されました。また少林寺拳法部も全国大会に出場され、すばらしい成績を残されました。陸上競技部、バレーボール部、ラグビー部や柔道部は中

国大会に出場され、いずれも華々しく活躍されました。このうちラグビー部は40年ぶり、柔道部は団体としては28年ぶりの中国大会出場でした。野球部は備中県民局環境保全功労者として、環境美化に対する活動を評価され、表彰されました。文化部では、音楽部コーラスが県のアンサンブルコンテストでその実力をいかんなく発揮され、みごと金賞を受賞され、吹奏楽団は定期演奏会や式典の際に素晴らしい演奏を披露されました。書道部は成田山競書会に出品した作品が特選・秀作に選ばれました。天文気象部と生物部はこれまでの研究成果を研究大会で発表し、それぞれ賞を受賞されるなど、多くの部が活躍されました。私たちはこのような先輩方の姿をしっかり胸に刻み、先輩方を目標にして、後輩の手下となる立派な金光学園生になれるよう、これからも頑張っていこうと思えます。

さて、社会に目を向けると、昨年は2020年の東京オリンピック開催が決定するという嬉しいニュースがありました。東京でオリンピックが開催されるのは、1964年の第18回大会以来56年ぶりのこととなります。その間、日本の社

会も大きく変わり、様々な科学技術の進歩により、人々の生活は、ますます便利で快適になりました。その一方で、変わらないもの、変わってはいけないものもあると思えます。そのうちの一つは、日本人の心「おもてなし」の心です。オリンピックは世界中からお客様をお迎えし、私たちが住む日本の素晴らしさを世界に向けて発信する良いチャンスだと思えます。日本国民の一人として、グローバルな視点を持ち、社会に貢献できる人材となるように決意を新たにしたいと思います。

先輩方の高校3年間は、たとえ辛いことがあっても仲間と共に励ましあって一生懸命、歩んできた3年間だったと思います。これからも、最後まで挑戦する心を忘れずに、夢に向かって前へ走り続けてください。先輩方との思い出を語ればきりがありませんし、いつまでも名残は尽きませんが、卒業生の皆様の更なる活躍とご健康を在校生一同、心からお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。

答 辞

卒業生代表 松本 耕平



冬の寒さも和らぎ、少しずつ春の訪れを感じられる季節となりました。本日は私たちのために、このように厳肅かつ盛大な卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。真新しい制服に身を包み、大きな希望と少しの不安を胸に金光学園に入学してきたことが、昨日のことのように鮮明に思い出されます。

以来、私たちは、金光学園で同じ時間を過ごし、今日この日を迎えることができました。私たちの門出にあたって、御来賓の皆様をはじめ、多くの方からお祝いや激励のお言葉を頂いたことに、卒業

生一同、心よりお礼申し上げます。

私たちはこの金光学園で勉強や部活動、行事を通じて、大きな「絆」を生むことが出来ました。勉強では、分からない問題を教えあい、部活動ではともに切磋琢磨しあい、学校行事では、楽しい時を共有しながら、仲間との「絆」を深めてきました。高校に入学し最初の行事である入校時学習合宿では、高校での学習方法を学ぶとともに、これから学園生活をおくる仲間との交流を深めました。修学旅行では、北海道とオーストラリアについてそれぞれのグループで事前学習をすることにより、旅行を充実するとともに、大切な思い出をたくさんつくることが出来ました。

中でも最も「絆」を感じることが出来たのは、高校3年生の体育会です。みんなで取り組む最後の行事であり、競技する人たちも、応援する人たちもみんな一生懸命でチーム一丸となることができ、これまでの「絆」を再確認するとともに、さらに「絆」を深めることができました。仲間と喜び合い、笑いあい、苦しみあい、涙したことすべてが私にとってかけがえない時間だったと感じました。

さてこの1年間で振り返ると、最も印象に残っている出来事は、二〇二〇年のオリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定したことです。56年ぶり2度目の開催に多くの人が喜び、日本中が「輪」になって歓喜に沸いたのではないかと思います。特に五輪決定に大きく貢献したと言われる、東京招致団の最終プレゼンテーションはとても印象的で、滝川クリステルさんの「おもてなし」が日本流行語大賞になったのは記憶に新しいと思えます。

みなさん、6年後のオリンピック・パラリンピック開催の時、日本はどうあるべきだと思われませんか？ 私は、日本が開催国として世界各国から尊敬され、「信頼」される国になるべきだと思えます。そのためには私達若者が日本の担い手として社会から「信頼」される存在になることが重要だと。

しかし、残念ながら、そのようになっているとは言えません。例えば昨年、若者によるネット上への不適切な投稿が社会問題となりました。そのようなこともあり、「最近の若者は」という言葉が続くのはマイナスのイメージの言葉が増え



つつあるのが現実です。社会からの信頼を回復するため未来を担う私たち若者に今何ができるのでしょうか？私たち自身が自らの生き方を見つめ直し、社会における役割を自覚し、一人一人が責任や思いやりのある行動をとることが大切だと思います。このことが世界各国からの日本に対する「信頼」を取り戻すことにつながるのだと思います。「信頼」は長い年月をかけて築き上げられるものであり、決して一朝一夕には得られません。私たちにとって、金光学園での生活は毎日が充実して、あつという間に過ぎたように感じますが、仲間たちとの「信頼」を築くには十分な時間でした。その「信頼」を糧とし社会でも新たな「輪」を広げることで、失いつつある「信頼」を取り戻し、これからの日本を引っ張っていききたいと思います。

私たちは今日卒業します。これまでたくさんの人との出会いがあり、たくさんのお世話になりました。いつも私たちの傍で、時に厳しく、時に優しく見守ってくれた先生方。どんなにささいなことでも親身になって相談にのってくださいました。私たちの可能性を信じて、最後までしてください。

明日からはもうこの校門をみんなでぐることはできません。それぞれが将来の夢に向かって、歩き出します。教室で冗談を言い合うことも、学校ではしゃぐこともできません。そう思うとさみしい気持ちでいっぱいです。今まで当たり前で過ごしてきた日々はもうなくなってしまう。しかし、これからの生活の中でたくさん壁が立ちはだかる時、思い出すのは学園生活で培ったものだと思います。そして私はどんなことがあっても学園の合言葉である「人をたいせつに自分をついに物をついに忘れない」を忘れずに新たなことに挑戦していきたいと思えます。

最後になりましたが、お世話になったすべての方々に深い感謝の意を表すと共に、歴史ある金光学園のさらなる発展を願い、答辞とさせていただきます。



で指導して下さった先生方に出会えたことは、私たちにとって大きな財産です。そして、いつもくだらないことでおなかを痛くなるまで笑いあったかけがえのない友達。毎日毎日こんなに楽しく過ごせたのは、そんな友達がいたからこそだと私は思います。これから先離れ離れになつてしまふけれど、一生私たちの「絆」はつながっていきます。

また、18年間こんなことがあつても私の味方でいてくれた家族。どれほどの迷惑をかけてきたでしょう。どれほどの心配をかけてきたでしょう。そしてどれほどの愛情をもらったでしょう。私がこうして晴れて卒業できるのは、家族の支えがあつてこそだと思えます。最後に、お世話になったみなさん、いつもは照れくさくて言えないけど、本当にありがとうございました。

来年度金光学園は創立120年を迎えます。現在、120記念館が建設中であり、来年度には新たな歴史のページが刻まれます。在校生のみなさんは今まで築かれてきた伝統を受け継ぐとともに、新たな歴史をつくるために、学園生として誇りあつというまに過ぎていきます。今はまだ漠然としか見えていない未来もすぐにやってくるでしょう。後悔だけはしないでください。今やるべきことを一生懸命

**答辞 送辞はそれぞれの起草委員
会で作られたものである。**

◆答辞起草委員◆

- 高3 小田 梨沙 多和 鈴菜
- 武繩健太郎 松井 陽祐
- 岡本 和記 田淵恵莉菜
- 松本 耕平

◆送辞起草委員◆

- 高2 大本 京末 金原 有香
- 平松佳乃子 大島 春乃
- 三輪 大貴 古川 泰誠
- 杉野 隼人
- 高1 高橋 源 川高 夏子
- 濱野 晃汰 掛谷 崇将
- 池原 京香 池田 吉隆

卒業を前に思うこと

伝えるべきは心・残るものは心よ

1組保護者 松田 一恵

この度、卒業を迎えるのは、3人目で末っ子。上2人も金光学園を愛してやまない卒業生です。歳の差がひと回りもあり、2人とも社会人として自分の道を歩んでいる姉兄。

7年前、弟の中学受験にあたり、どの学校を目指すか(上の子達の頃とは違い、県立・私立の中高一貫校が随分と増えていたので)相談したころ、「学園での環境・心は出てみて分かる。あの経験はさせておかないと・・・」と揃って強く推すのです。私も充分に感じていました。友達同士助け合い・ぶつかり合い乍らやり遂げる数々の行事。日々の中では、車イスの生徒が階段を上がりたい時「オーイ」と声がかかると、即、数人が集まり、皆でヨイショと持ち上げ、階上に連れて行く自然体の生徒達。登校時間には、玄関をほうきで掃き清め乍ら「おはよう、昨

日の試合はどうだった?」との言葉かけをされる先生の温かさ。そうだった17年前、最初の子の学校説明会の時、「親権の半分を学校に預けて下さい」と言われた言葉を信じ、学園を目指したのでした。改めて、愚娘愚息達がお世話になりました。きっとこの子達の「心のふるさと」は金光学園です。

子供の成長を見つめて

2組保護者 田淵 弘子

「ぼく、ブラスに入る!」息子は中学に入学して、吹奏楽団に入部しました。「えっ、この子が?」と驚きましたが、暑い日も寒い日もトロンボーン仲間達と練習に励み、ステージで堂々と演奏する姿を見た時は感動しました。韓国春川女子高校への演奏旅行にも親子で参加させていただきました。ところが高校では、「ラグビーにする!」と、今度はグラウンドで泥まみれの日々。一所懸命ボール

を追い、技を覚え、チームワークの大切さを学び、試合で負けた時の悔しさ、勝った時の嬉しさを味わい、高3の春には中国大会に出場させていただきました。勉強は苦手、先生方には随分心配をおかけしました。また、思春期の不安定な気持ちを親や壁にぶつけることもありました。親として見守るしかない時期もありましたが、病氣や怪我の時、側に居てやったり、試合の応援で声を振り絞る私達の姿を見ていたのでしょうか、「ありがとう」と言ってくれるようになりました。

卒業を前に、「金光学園でよかったです!」と言う息子。長男の時から11年間、学園でのびのびと、そして大切に育てていただいたこと、本当に感謝しております。これからも息子達の心の故郷として悩んだり迷ったりした時は、また迎えてやって下さい。本当にありがとうございました。

仲間と共に

3組保護者 伊東 生恵

長かったな。いや、終わってみれば短い12年間でした。

長男が金光学園で野球をやりたいと、大きな夢と期待で胸いっぱい入学式から、次男も同じ思いで今日の卒業まで、金光学園で出会ったすべての方々と共に、特に野球部の仲間と共に、大変有意義な日々を過ごさせていただきました。野球部では「チーム」のひとりとして、プレイだけではなく、チームメイトとの連携を図り、上を目指し、日々、練習に励んでいました。

高校野球の夢の舞台「甲子園」への出場は出来ませんでした。長男は、ベスト4で夢はかなわず、次男は初戦敗退。夢や目標に向かって、スタッフと仲間達と共に挑む姿は、カッコよかったです。失敗しても負けても、次へ次へと挑戦し続けました。精神的に辛いときには支えてくれる仲間がいて随分助けられました。

良い時も悪い時も仲間がいてくれたのです。この素晴らしい仲間は、一生の大切な宝物です。ずっと大切にしていって欲しいです。

金光学園でいただいたすべてのもの今後の自分に活かしてもらいたいです。金光学園そして野球部、12年間本当にありがとうございました。

6年間を振り返って

4組保護者 坂本 直美

思い出してみると早いもので、6年前まだ私より身長が低かった、3月生まれの息子が、今では私を見下ろすほど大きく成長しました。期待と不安を胸に入学した頃のことがついこの間のように思い出されます。

最初の頃は、慣れない電車通学ということもあってか、帰りに眠くなり乗り過ぎすことも何度かあったようです。時には、体操服が一人旅をすることもあり、駅の忘れ物預かり所まで取りに行ったことも今では笑い話として記憶に残っています。

参観日、学校行事、中学では科学部で、高校では生徒会事務局、色々な事に頑張っている姿を見る事が沢山出来て、親としても幸せだなあと改めて感じました。息子の生き生きとした様子を見て、下の娘も、学園に行きたいと言って、勉強を



息子と共に

5組保護者 二階堂 睦恵

父親の思いを汲んでか本校の門をたたいてあつという間の6年間でしたが、思い返せば色々な事がありました。中学時代は、遅い反抗期が手伝ってか、一人前に一通りの社会勉強をこなしたようで、先生方にご迷惑やご心配をおかけしました。自分は、ハラハラしながら外から眺めるだけで何も出来ませんでした。先生方は、どんな時も親身になり叱咤激励の上お導き頂きました。本当に感謝です。この3年間は、息子の人格形成に大きな影響を与えて頂いたと感銘しております。

何とか高校に進級した後、これまた父親の歩んだ道を追うようにラグビー部に入部しました。これまで何かと中途半端であった息子が日に日に転身していくのに驚き目を見張りました。「One for all All for one」(みんなは一人のために一人はみんなのために)この言葉の元に、一生懸命練習に打ち込んできました。ラグビーは、人と人がぶつかり合う格闘技です。擦り傷、捻挫は日常茶飯事。親の心配をよそに、ラグビーの楽しさに目覚め、チームメイトとも絆を深めてきました。その

甲斐あって、名門関西と手に汗握る試合に見事勝利し、子供達はもちろん、先生、保護者同士、大喜びしたことを昨日のこのように思い出します。そして、目標にしていた中国大会にも出場することが出来、学校としても40年振りの出場となりました。私も息子達の姿に、物事に一生懸命打ち込むことの尊さ、気高さを思い出させ、改めて勉強させられました。また、ラグビーを通じ、親子共々、生涯の友達を沢山作ることが出来ました。ラグビー部で汗と涙を流した思い出は、一生の力になると思います。

決して、文

武両道とはいきませんでしたが、恵まれた環境の下、学業に部活動に伸び伸びと充実した学園生活を送れましたのは、お世話になった先生をはじめ、指導して



くださった外部コーチ、支えて下さった皆様のおかげです。本当にありがとうございます。

最後になりましたが、金光学園の更なるご発展をお祈り申し上げます。

6年間、ありがとうございます。

巣立ち

6組保護者 上村 裕子

卒業おめでとうございます。あつという間の6年間でした。思えば2歳上の姉があまりにも楽しく学園に進学する姿を見て、学園を志望しました。

片道1時間以上の道のりを、朝6時にご家を出、帰宅は夜8時。部活動に疲れ毎日の勉強は思うように出来なかつたけれど、親子共よく頑張ったと思います。

学園では、色々な行事の中で自分達で計画し、学年を取り払っての人間関係を築くなど、楽しく有意義に過ごしていました。保護者も食事会や行事を通じて学校や子供、親同士と関わる事が出来、今後も繋がっていかれたらと思っています。

一度限りの人生、悔いのないようにと進む道も自分で選ぶようにしていると、姉2人の住む東京での大学進学になりま

金光学園でよかった

1組 小田 梨沙

金光学園で過ごした6年間は本当にあつという間でした。入学当時は小学校からの知り合いが少なく、なじめるか不安でしたが、気が付いたら私はたくさん仲間の笑顔に囲まれていました。仲間がいてくれたからこそどんなことも乗り越えられたと思います。

高校では2・3年でクラスのメンバーがほとんど替わらず、より絆や団結力が強まりました。その絆や団結力が発揮されたのが様々な行事の時です。優勝に向けて気合いを入れてがんばった体育会や球技大会。みんなで知恵を絞って、自分たちで作成、大成功したほつま祭。みんながいたから味わえた感動や何事も一生懸命すると楽しいと学んだことは、私の宝物になりました。

卒業すると大切な仲間とも離ればなれになってしまいます。毎日おなか痛くなるほど笑っていた日々はもうなくなってしまう。さみしいですが立ち止まるわけにはいきません。それぞれが違う道へ進んでいき、夢に向かって走り出していくのです。でも、苦しいとき、悩ん

した。自炊の大変さも分かるかな？

とうとう末っ子の卒業。いままでの18年間、そして11年半作り続けたお弁当。色々な事が走馬燈のように浮かんで、涙が出て来ます。

子供と共に歩んで来た生活も春で終わり。私も卒業です。これから淋しくなりますが、学園で培った6年間で自分の糧に、人間関係も大切に、それぞれが別で地で頑張りたいと思います。

今でも上の娘は「学園最高！」と口癖のように言っているように、皆学園が大好きです。先生方、本当に有難うございました。

感謝

7組保護者 山地 ゆかり

金光学園にご縁を頂いた事に本当に感謝しております。振り返ってみれば、充実した幸せな6年間でした。学業に部活動に、又様々な行事を通して、教室で学ぶだけでは得られないとても大切なものを沢山頂きました。

息子は、6年間バレーボール部でチームワークと忍耐を学び、心が一番成長する、とても多感な大切な時をここで過ご



しました。仲間と過ごしている時の楽しそうな顔、負けた時の悔しい顔、私はバレーボールをしている時の息子が一番好きです。大きな声で応援した事も良い思い出です。時には厳しく時には優しく指導して下さいました先生方のお力添え無しにはできなかったでしょう。本当に感謝の気持ちで一杯です。

今まで学んだ事を忘れず、毎日を当たり前に過ごす事のできる幸を胸に、これからの将来に向かって進んでいって欲しいと願っております。

最後になりましたが、金光学園の更なる発展をお祈り申し上げます。

6年間、ありがとうございます。

だとき、きっと思い出すと思います。最高の仲間のこと、楽しかった学園生活のことを。本当に金光学園でよかった。本当に楽しくて仕方がない6年間で。みんな！ありがとう！！

終わりのなき旅

2組 久保 侑也

金光学園に入学してから6年間の月日が流れ、卒業を前に思うことは、金光学園で過ごしてきた一日一日が本当に充実していたということです。

僕は高校で、音楽部コーラスに所属し、人の前に出て歌う機会を沢山頂くことができました。日々練習を重ねていく中、



皆で力を合わせ一つの舞台を創り上げることの難しさを学び、そしてその難しさを越えた後の楽しさも学ぶことができました。僕達が毎日こうして練習を送れるのも保護者や地域の方々、いつも熱心に指導して下さる顧問の先生方の支えであったことだと思います。

学校での日々の生活では、笑い合い助け合ってきた友達、いつも悩みを聞いて下さった先生方、そして毎日応援してくれていた両親に支えられ、時には苦しい事もありましたが、楽しく過ごすことができました。

これから僕は、大学生となり社会人となり社会へ出て行き、困難にぶつかるところもあるでしょう。しかし、そんな時には学園での生活を思い出し、支えて下さった方への感謝の気持ちを忘れずに人生という終わりのなき旅を歩んでいきたいと思っています。

6年間本当にありがとうございました。

最高の仲間

3組 寺田 亮太郎

僕は高校から金光学園へ入学しまし

た。そして野球部へ入部し、日々努力しました。僕は入部した頃自己中心的な人間で自分が良ければいいという考え方をしていたり、気に入らないとすぐに態度に出るようなとても未熟な人間でした。しかしそのような人間では野球が上手くなるはずもなく、チームメイトとも信頼を築くことができていませんでした。そのことを思い知らされたのは一年生の大会です。僕はその時キャプテンをしており、チームを引っ張り優勝校になってやる、と意気込んでいました。しかし、チームを引っ張るどころかチームに大変な迷惑をかけました。仲間のエラーに腹を立て、自分一人で試合をしているような気持ちになっていました。試合後、高田先生に「お前の態度がエラーを連鎖させるとる、皆お前に気を使っとなんじゃないか」と言われ、自分は信頼を築けていない事に気付きました。そして自己中心的な考えをやめ、仲間と本当の信頼関係を築こうと決意しました。練習に手を抜かないのは勿論の事、ゴミを捨てるなど小さな事から変えていこうと必至に取り組みました。そうするうちに仲間の気持ちも理解できるようになり、最後の大会前には、

本当の信頼が築けたかなと思えるようになりました。最後の夏、こんな最悪だった僕を見捨てずエースとして認めてくれた仲間に恩返しできるように、自分のピッチングでチームに勢いをつけ、甲子園へ絶対に行くぞと燃えていました。結果は一回戦敗退でも辛い引退となりました。しかし3年間の苦労や喜びを共にした仲間は、最高の仲間になりました。本当に感謝しています。ありがとう。

出合いに感謝

4組 藤井 みなみ

金光学園で過ごしたこの6年間は、あつという間でした。入学式の日、友達ができるのかとても不安でした。しかし、入学当初に行われたオリエンテーションや、クラスでの交流会によって私の不安はすぐに解消され、沢山の友達を作ることができました。友達に支えられてもらって助けてもらったりしたことは、今でも鮮明に覚えていて、思い出すと温かい気持ちになります。そんな友達と泣き笑い、共に歩んだ6年間は、私にとってかけがえのない時間であり、一生の宝物です。

部活動では、音楽部吹奏楽団に所属

し、先輩、後輩という存在に出会うことができました。そして、100人もいる部員と音楽を奏でることの素晴らしさを感じることができました。しかし、部活動をしていく中では、辛かったこと、何度もうくじけそうになり、辞めたいと思うこともありました。でも、そんな時に仲間は、何度でも励ましの言葉をかけてくれました。そして、この大切な仲間や、大切な後輩と共に、最後のステージを終えた時の感動と達成感は、それまで感じたことのないほどのものでした。この感動と達成感を私はこの先ずっと忘れることはないでしょう。

最後に、今までお世話になった家族、先生方、沢山の仲間、先輩、後輩、本当にありがとうございました。

親愛なる前歯へ

5組 金子 貴裕

僕はこの話をいろんな場所でしたのですが、僕にとって大切な思い出なので卒業の思い出として書きたいと思います。

僕は高校から金光学園に入学し、もともとラグビーに興味があったのでラグビー部に入部しました。高校2年の時、ラ

グビーの試合中と練習中に2度、合計3本の前歯を折りました。ラグビーは体と体がぶつかるスポーツなので怪我は付き物です。ですが、怪我をする代償に得るものがありました。

練習中に歯を折った時、これから一生自分の前歯は戻ってこないのかと思いで落ち込んでいると2人の部活動の友達からメールがありました。メールには、「また笑って一緒に練習できたらいいな」「金子の前歯が欠けても金子のギャグセンスは欠けんで」と書いてありました。僕を励まそうとしてくれてるんだと思え、すごく嬉しかったのを覚えています。前歯が折れたおかげで普段は分からない友情を感じられました。

このような優しい友達のおかげで金光学園での生活は辛いこともありましたが、楽しいことのほうが多いとして残っています。金光学園で、気の合う友達がいいたこと、優しい先輩がいいたこと、一緒に活動してくれる後輩がいいたことは当たり前なことではなく本当に幸せなことだと思います。そして、僕は3年間の高校生活で一生の友達ができたと思っています。外部進学の際にも初めから優しく

接してくれた友達、勉強以外の面でも僕を指導し評価してくれた先生、支えてくれた全ての人々に感謝しています。ありがとうございました！

学園で過ごした時間

6組 上村 果央

6年間を通して私は大切なことをたくさん学ばせていただきました。

特に私が色々学ぶことができたのは部活動だと思います。私はバスケットボール部のみならず6年間活動できて本当に幸せでした。中学校の頃から部内の人間関係であったり、部活動の取り組み方であったり色々大変なことばかりで、時には先生方に迷惑をかけることも多くありましたが、卒業する今となっては自分を成長させてくれた大切な思い出です。

また、私は中3の時チアリーダーを、高校では学級委員や部活動のキャプテン、体育会のブロック女子代表など先頭に立つことをたくさんやらせていただきました。友達に助けられながらでしたが今後に活かせる良い経験ばかりでした。

勉強面では塾も部活動を引退するまで行かず、全く勉強していないのに目標は

高く持っていました。私には厳しい進路なのに先生方はたくさん協力してください。応援してくださいました。初め考えていた進路とは違いますが興味のある楽しいような学部に決まり、先生方も心配してくださっていたのですごく喜んでくれました。

最後に、私の周りには個性豊かで一緒にいて楽しい人たちがばかりで、また先生方も友達と職員室に遊びに行くのが日課になるくらい良くしてくださる先生が多くいらっしやいました。私は本当に学園に通うことができてよかったです。

学園生活で得た大切なもの

7組 山地 佑太

小学6年生の時に、『僕は必ず金光学園へ行く』と決意し、受験し、合格しました。あれからの6年間はあつという間でしたが、中身の詰まったかけがえのない学園生活でした。

中学入学式の日には、多くの不安が脳裏をめぐりましたが、これからの学園生活での希望と期待の方が大きかったので、迷いはなかったです。毎日毎日、学園で笑ったり悩んだりする日々を過ごすこと

ができたのも、多くの友達がいてくれたおかげです。毎日が本当に楽しかったです。共に学び、共に学園生活を送ってくれた多くの友達に『感謝』しています。本当にありがとうございます。

そして、6年間続けたバレーボールも私にとって大変思い出深いものとなりました。今でも「ボールを落とすな」大きな声が心に響きます。1つのボールがいつも仲間との心を繋ぎ、絆を深め合いました。僕らをここまで成長させて下さった先生方には本当に感謝しています。ありがとうございました。

最後にわがままな僕をここまで見守り、成長させてくれた父さん、母さん本当にありがとうございます。

僕は、これから次のステージへ進みます。大切にしてくれた、この瞬間とこの気持ちを忘れません。もう一回り成長した自分を見てもらえるように頑張ります。見ていて下さい。

全てが皆さんに『感謝』しています。本当にありがとうございます。

卒業短歌

■一組■

朝早く母が料理をずる音は

僕専用の目覚まし時計

杉原 佑哉

満開の桜の花びら背にしてさ

先の見えない未来を歩もう

檀上 直之

大好きな仲間に出会った学園は

もう一つの私の家

小田 梨沙

「お帰り」と待つてくれる人がいる

今もこれからも私の支え

日笠 愛子

大好きなみんながくれた『友』の歌

胸にしまつて夢に向かつて

八塚 玲美

■二組■

ポスト前今か今かと待っている

望むは一つ合格の文字

神崎 政典

移りゆく季節と共に刻まれた

ほつま魂ずつと消えない

牧野龍太郎

最高の仲間がいたから勝ち取れた

勝利ではない我らの絆

守屋翔太郎

積み上げた六年間の宝物

部活に行事何より仲間

吉山はるか

思い出は苦難の方が多けれど

だからこそ輝く努力の証

守屋 拓真

■三組■

回り道たくさんしたが

最後には親孝行ができるかなあ

石井 達也

夢のため仲間とともにしのぎあい

思いは一つ県ナンバーワン

伊東 駿

「先輩!!」と輝くかわいい後輩の

笑顔忘れぬ思い出は擦れぬ

花咲 あず

学園で出会えた仲間には伝えない

感謝の気持ちを花束にして

坂本 真梨

六年間見守ってくれた学園に「さよなら」

じゃなくて「いつてきます」

矢田 喬子

■四組■

入寮し一人生活始まつて

やつと気付いた親の気遣い

坂元 啓

友人とさわいで飲んだココア

口に広がる青春の味

松枝 浩平

旅立とう共に紡いだ思い出

希望と証書胸に抱いて

樋上 愛美

白い息絶えることなく夢語り

いつもより光る冬の星空

道広 百佳

目覚ましをかけて寝てはいるものの

気付けば寝過ぎし母のお世話に

西山 佑一

■五組■

今日の日や誰ぞ詠はんこの心

泉の如く沸き立つ感謝

大西 寿弥

大雨に負けじと投げたラストスロー

フールドで終わるも悔いはなし

加藤 佳祐

電車乗り通い続けた六年間

電車の時間が友との時間

中本 雅也

大切な二人の家族がくれたのは

変わる力と変わらぬ愛情

高橋 満里

優しさにあふれる日々を忘れない

どんな私も見守る仲間

津田 綾奈

■六組■

「がんばれ」と響く言葉を追い風に

勇気の翼よ光輝を放て

堀 祐基

目に写るみんなの笑顔この景色

心に残し未来へ踏み出す

藤井なり美

友達と共に歩いたこの道も

今日で最後とふみしめ歩く

川崎 敦貴

学園の六年間の思い出を

背中に乗せて夢に駆け出す

河上明佑美

流れ落つ涙の色は何色か

心の内の鮮やかな思い出

近藤 祐樹

■七組■

部活動鍛え直した我が心

鍛え直して今がある

河野 大哉

悪戦苦闘かつて学んだ四字熟語

今身に染みる受験勉強

重谷 達也

済みわたる青空の下で

燃え上がる狙うは一位体育会

小林 達也

夕日射すオレンジ色の教室で

君を待ちつつ頬赤くする

青川ひかり

ブレザーを腕に通して今日もゆく

胸の勲章誇りに思いつ

宮原 一華

贈る言葉

必要なのは努力と自信

中島 覚

卒業おめでとう。皆さんと一緒に過ごせたこの3年間は、私にとってかけがえない貴重な時間となりました。すべて皆さんののおかげです。本当にありがとうございました。

さて、みなさんは自分に「自信」がありますか。日本の中には「謙遜」が美德であって、自信に満ちた人は受け入れられないところがあります。しかしみなさんは、これから世界で活躍するべき人たちです。何にでもチャレンジできる若者です。自分に自信がなかったら、チャレンジができる絶好の機会を逃してしまおうと思いませんか。是非、自分にもっと自信を持って、何事にもチャレンジしてほしいと思います。

しかし、やみくもに自信を持ってと言っても無理な話です。自分に対して自信を持つためには、普段から努力することが必要となります。努力がなければ、それ

自分を変える意識を

友田 勝己

みなさん卒業おめでとう(´▽`)です。高校生活最後の大切な一年間をみなさんと一緒に過ごすことができ、とても幸せでした。

さて、あるインターネットの世論調査

によると、日本の理想的なリーダーとして坂本龍馬が第1位に挙がったようです。閉塞感の続く今の日本において、明治維新という大変革の大きなきっかけとなった彼の生き様は、まさに今の日本が求める人物としてふさわしいと思えるかもしれません。作家の司馬遼太郎は、長編歴史小説『竜馬がゆく』の中で「天がこの国の歴史の混乱を收拾するためにこの若者を地上にくだし、その使命が終わったとき惜しげもなく天に召しかえした」と書いているように、坂本龍馬は維新史の奇跡といわれる人物です。それとともに、幕末の混乱期にあつて、時代の風を読み、いち早く象徴的に自己変革を果たした人物です。坂本龍馬が友人の榎垣清治と行きあうたびに、自分を変革していた有名な話があります。「長い刀から短い刀」「短い刀からピストル」「ピストルから万国公法」というように、古い武器から新しい武器、新しい武器から法

律に、変化の象徴を求めながら、自分自身の変化を告げた話です。龍馬の変革は、そのまま彼が「土佐藩人から日本人へ」「日本人から国際人へ」という転換をおこなっていったということでしょう。今の世の中で活動しようとも、世界の動きを無視しては仕事もできません。「常に広い視野と情報収集」が大事です。そして、「絶えず、自己変革をおこない続ける」ことが成功の秘訣でしょう。



金光学園を卒業して新しい扉を開いて進んでいくみなさんが、夢と勇気あふれる人間として活躍することをいつまでも応援し、見守っています。

今、伝えたいこと

佐藤 徑

卒業おめでとうございます。学園中出身の皆さんとは4年間、高入生の皆さんとは3年間、時間を共に過ごさせていただきました。その時間を振り返ってみると、今の私にとって本当にかげがえのないものになっていると気づきます。この4年間で、非常に印象に残っている3つのことをお伝えしたいと思います。

一つ目は、自分の身近に起こった生と死です。人生最大の喜びと悲しみを経験したかのようにも思えました。両者は等価であり、それぞれに大きな意味があることを肌で感じました。命を大切に。その大きな意味を忘れずに、心が鬼になりそうなときは、私は感謝の気持ちをよび起こすように努めます。

二つ目は、人生に欠かせない要素を

持つことです。おそらく父から受け継いだであろう英語と音楽に対する情熱、幼い頃友人との付き合いで始めたサッカーは、公私ともに私の人生に大きく関わり続けています。何度か心が離れそうになったり、実際離れたりしても、再び引き寄せられるのはなぜだろうと不思議に思うことがありました。それは、10代から20代にかけて、すでに人生の基盤ができあがるからではないでしょうか。自分にはこれがある、という要素をいつまでも大切に。いつか手助けになってくれるはずです。

三つ目に、高校3年生の進路指導です。皆さんが人生の基盤を築き、今後の方向を決定づけるお手伝いをさせていただくということに責任を感じる日々でした。共に悩んだ時間は忘れられません。様々な局面で、果たしてこの判断で良いのか、良かったのかという迷いが生じることが今後もあると思いますが、自分の信じた道を進み続けてほしいと思います。

将来社会に出て、与えられる側から与える側になったときに、責任やプレッシャーに負けないようにするために

も、今を大事にしてください。人生の基盤を固め、ブレない方向性を見出してください。私の経験上、20代半ばまではぐんぐん伸びる、と人生半ばにしたいと思います。

キラキラした若者に

平賀 康

ご卒業おめでとうございます。高校の入学式の日に出会ってから、もう3年が経とうとしているとは、時が経つのは本当に早いと、あらためて感じます。この学年は、人懐っこく、心優しい生徒が多くて、いつも温かい空気で学年全体が包まれていたように思います。そのような環境で過ごせたみなさんはとても幸せだったと思いますが、私自身もとても幸せな3年間でした。

このように素晴らしい思い出をくれたみなさんですが、ひとつだけ物足りないと思っていたことがあります。それは、『積極性』です。いつもみんなで顔を見合せて、誰かが最初に出るのを待っていることが多かったように思います。

最後に贈る言葉として、そのことについて、私自身の大学生活で感じたこと、

学んだことをアドバイスとして書かせていただきます。卒業後の、みなさんの生活に少しでも役立ててもらえれば幸いです。

一、大学からは何も与えられない

高校までは学校が、生徒がうまくいくよう全て用意されていました。こちらが積極的に求めれば、何でも揃うすばらしいところですが、その求めるものがなければ、大学生活はとても虚しいものになってしまいます。自分から積極的に、何かを求めてください。

二、自分を成長させてくれる人々が、全国から集まっている。

進学すると、そこには、全国からたくさんの方が集まってきていて、自分を成長させてくれる人が山ほどいます。今までの人生にはいない、異質な存在かもしれませんが、その人達と関わることを恐れず、たくさんの方のことを学んでください。

三、成功するチャンスは目の前をどんどん

ん通過していく。

進学後は、就職など、自分の人生の方向性を決めていかなければなりません。その方向性を決める手がかりとなるチャンスは入学後、たくさんの人達が運んでくれます。しかし、そのチャンスにびびったり、躊躇したりするとそのチャンスはすぐに遠くへ行ってしまう。チャンスだと思ったら迷わず飛びつき、まずはやってみましょう。

その他の、大学生活を歩んでいくコツは現社の無駄話に込めたつもりです。そして、面白いことや、楽しいこと、ワクワクすることなどを、いつも探している、キラキラした若者になって欲しいと思います。みなさんが積極的に人生を楽しみ、たくさん失敗もして、最高の大人になって金光学園に帰ってくることを、私は楽しみに待ちたいと思います。

今、ここに存在しているのが幸せ 宰相 夕佳

ご卒業おめでとうございます。皆さんと過ごした3年間は、私にとっても、とても楽しく充実した毎日でした。

今回、祝宴で流された「あしあと」を作るにあたって、皆さんの中1ないし、高1からの多数の懐かしい写真や通信を見る機会を頂きました。中学生時代のかわいらしい姿に笑いがこぼれたり、卒業短歌に思わずしんみりしたり……。作成しながら、数々の思い出が心に浮かんできました。暑い中、一生懸命作ったオンドル小屋、皆さんの素敵な成績だったけど思いつきり楽しんだ体育会、嫌がられた漢字の再テスト……。いろいろなことがありましたが、みなさんの素直さや明るさ、ずいぶん助けられました。

さて、通勤時に何気なくかけていたCDの中で、この歌詞いいなと思った「ハジ↓」の一曲を「贈る言葉」の代わりにしたいと思います。

「明日なにをしようかなって考えられることが幸せ。明日は学校だ。嫌だなんて思えることが実は幸せ（省略）僕らついで満たされてないことばかり考えがちで

すでに手にしてる幸せのこと。すぐ忘れてしまふけど。命も太陽も宇宙もあること。それ自体が当たり前じゃない。だとしたら、今僕という存在が、ここにいてということ。それだけでものすごく幸せなことだと僕は思うんだ」

簡単に言うと、恵まれた環境の中で生きていくことに感謝する気持ちを忘れたらいけないよ、と。ありがたかもしれません。元気がでない時に、ふと耳にしたフレーズだからか、心に響いてきました。人はなかなか現状に満足するということができません。何気ない日常をいつまでも続く当たり前のことと思ってしまう、つい不満を口にしてしまいます。病気になるって健康のありがたさを実感するように、なくなってみて初めてその大切さに気がつくことがよくあります。毎日ご飯が食べられる。勤める。眠れる。くしなればならないではなく、くできることに感謝しながら生活できると人生は楽しいだろうなと思います。これが、でも、なかなか難しい。

金光学園を無事に卒業し、新しい世界に飛び立つ皆さんには、刺激的で楽しい毎日が待っていることと思います。け

ど、やはり良いことばかりではなく、時に、辛く苦しく、耐えなければならぬこともあると思います。苦しさを感じた時には、そう思えるほど一生懸命に何かと向き合っている自分を誇りに思ってみたらどうでしょうか。適当に、楽に、生きていけば、苦しさを感ずることもあまりないかもしれません。でも、「今僕という存在がここにいてということ」、それだけで「幸せなこと」なのだから、どうせなら「明日」は、何に挑戦しようかと思いつながら、毎日を送ってみてはいかがでしょうか。

伝える力

籠崎 恒祐

ご卒業おめでとうございます。これから社会に出ると、人と接する機会が多くなり、自分の考えを相手に説明する場面が多々あることでしょう。

航空宇宙工学の若手研究者であり、アメリカのNASAジェット推進研究所の研究員である小野雅裕氏は、MIT（マサチューセッツ工科大学）大学院に留学した際に初めて、日本人の国語力の乏しさを痛感したと振り返っています。彼に

よると、手先の器用さと数理的能力では日本人が勝っているようですが、「アメリカの理系学生は10のことを20にも30にも膨らませて話すのがうまく、雑多な思考をきれいなストーリーにまとめて説得力を持たせて論文を書くことがうまい」と述べています。

彼は、国語力さえ身に付けられれば、日本人は国際社会において外国人をリードできる人材になれると考え、大学で学生指導を行った際には、「理系のための読書ゼミ」という企画を開催しました。この企画は、毎週一冊ずつ、理系的でない本を読み、書評を書き、議論するという過程によって、読む・書く・話すという3つの要素を身に付ける訓練です。気が付いた方も多いと思いますが、金光学園で行っている読書会と良く似ていますね。

今後、皆さんは読書会のような機会に巡り合うことがないかもしれません。しかし、読書に限らず、自分が熱中した何か一つのことを誰かに教えたい時、それがどんなに面白くハマるかを考えて相手に伝えようとした経験は誰にでもあると思います。理解してもらおうとするこの熱意が伝える力であると私は考えます。

最近、娘が「アイカツ！（アイドル活動する女の子が活躍するアニメらしいです）が楽しい」と言っています。ただ、残念ながら娘には国語力が乏しいため、熱意があつたとしても、お父さんは共感してあげることができません。

もし、あなたが熱意を持って相手に伝えた結果、あなたの感情が相手と共感できたのなら、前述の小野氏が言う国語力が身に付いた証拠であり、つまり国際社会で通用する土台ができたと言えるのではないのでしょうか。

可能性を信じて

成田 知弘

卒業おめでとうございます。皆さんと出会ってもう3年になりますね。皆さんのたくましくなった姿を見て、時間の流れを感じます。皆さんの学年団の一員としての2年間は本当に充実した日々でした。振り返ると皆さんの楽しい日々を思い出します。高校1年生では入校時合宿やほつま祭、体育会などのイベントでの一生懸命な姿、高校3年生では入試やセンター試験の前に、不安な気持ちを抱えながら頑張ってくれた笑顔など

思い出は数知れませんが。皆さんの思い出をありがとうございます。

4月からそれぞれが別々の道に進みます。「自由」と感じることも多いでしょう。その自由の中の行動はすべて自分が考えた行動です。「こうしよう」という自覚がなくても、自分が選択し、行動していきます。その結果には、良い結果もあれば悪い結果もあります。変化していくこともあれば、変えられないこともあります。だからこそ、いろんなことに挑戦してみてください。自分から行動してみてください。可能性を信じて。

自分の人生 自分で切り開け

石井 秀典

卒業おめでとうございます。貴方の大切な人生の一瞬を共に過ごせた事を嬉しく思います。同時に全ての事に「感謝」し、たいせつな思い出とします。

〜 夢 With You 〜

共にお互いの夢に向かって前進しよう。前進して疲れたり、躓いたりしても大丈夫。

熱い瞬間を共に過ごした仲間がいるじゃないか。

勿論、私も居ます。いつも、いつまでも 本当にありがとう。

∞ (無限大)

山本 澄枝

1月21日 (センター自己採点)

「ゆっくりと確実に」

1月22日

「転んでも起きろ」

1月24日 (データ返却)

「明日を信じる」

これは私の家のカレンダーにある今日の一言です。今、大きな岐路に立ち、悩み続ける皆さん。そして、どうしてあげようかと同じように悩む私。しかし、私は最近このカレンダーを毎日見て、「前向きに考えよう、今日も頑張ろう」と自分自身に呼びかけています。

皆さんには中3の時出会ってから、もう4年経ちます。中学卒業時にいったんお別れして、高2で再会。久しぶりに会ったその時の成長ぶりが今でも忘れられません。そして、はや卒業。この2年でさらに精神的に成長したように感じます。日々、共に過ごしながら、皆さんの

成長する姿を見ることができると、そして卒業後の活躍する姿を知る嬉しさ、この仕事の生きがい、喜びを感じています。皆さん、ここまで成長してくれて、ありがとう。

これからのそれぞれの道に進み、順調に進んでいくことをお祈りします。しかし、時にはなかなか思い通りにはいかないことがあるかもしれません。その時は、誰に遠慮することもなく、自分の意志で立ち止まって休めばいいのです。冒頭のカレンダーの言葉のように「ゆっくりと確実に」でいいのです。

2月28日 (卒業式) 「大きな夢を持つ」
皆さんは一人ひとりが「限らない可能性」を秘めています。そして、いつ成功するかなんて人それぞれです。ピカソは「できると思えばできる、できないと思えばできない。これは絶対的な法則だ」と言い、イチローは「壁というのは、できる人にしかやってこない。超えられる可能性がある人にしかやってこない。だから壁はチャンスだ」と言っています。

一人ひとりの「大きな夢」に向かって、「明日を信じて」「ゆっくりと確実に」これからの道を、歩んでいって欲しいです。

皆さんの可能性は+∞なのだから。ご卒業おめでとう、ございます。

「つもり違い十カ条」の教え

岡辺 雅子

千二百年余り前に行基が開いた信仰の山である、高尾山薬王院。「つもり違い十カ条」の看板は、ここにある

高いつもりで低いのは何でしょうか。答えは教養。以下、低いつもりで高いのは気位/深いつもりで浅いのは知識/浅いつもりで深いのは欲/厚いつもりで薄いのは人情/薄いつもりで厚いのは面の皮/強いつもりで弱いのは根性/弱いつもりで強いのは我/多いつもりで少ないのは分別/少ないつもりで多いのは無駄。

我が身をふりかえれば、どの条文にもどきりとさせられる。

送る言葉として適当かどうかわかりませんが、信仰の山にふさわしい看板のかもしれない。

わくわくできる人生を

岡崎 裕

卒業おめでとう、ございます。理系の人

On This Day

Eiko Moritani

Mend a quarrel. Search out a forgotten friend. Dismiss suspicion, and replace it with trust. Write a love letter. Share some treasure. Give a soft answer. Encourage youth. Manifest your loyalty in a word or deed.

Keep a promise. Find the time. Forage a grudge. Forgive an enemy. Listen. Apologize if you were wrong. Try to understand. Flout envy. Examine your demands on others. Think first of someone else. Appreciate, be kind, be gentle. Laugh a little more.

Deserve confidence. Take up arms against malice. Decry complacency. Express your gratitude. Worship your God. Gladden the heart of a child. Take pleasure in the beauty and wonder of the earth. Speak your love. Speak it again. Speak it still again. Speak it still once again.

とは授業や補習で2年間の、天文気象部の人とは6年間の、掃除当番の人とも思いうちがあります。この学年の人は、人なつこい人が多く、仲良く、楽しく、良い思い出ばかりです。

金光学園で付けた能力、体力、体験、人間関係は、進学後の生活に、将来にわたってきつと大きく役立つと思います。

大学では、世俗的でない、思いっきり大きい世界観を築いて欲しいと思います。束縛されずに、自由に世界を見る事ができ、友達と自由に議論できるチャンスです。自分の人生を作る上で、決定的な場になると思います。その上で、現実的な人生の選択をして下さい。

自分の中にわいた疑問やひらめき、問題意識を広く、大きく持って、気になったことは、納得いくまで調べましょう。問題意識のあるときの学習や研究は力になります。何がどこで役立つかは予想できないので、広く、大きく持つことです。30歳で成果を出した小保方さんのように、基礎をしっかりと身に付けつつ、既成概念に固まらない、それを超える、おもしろい人生を送って下さい。





道

(9)

金光 道晴

ソチオリンピックと東京オリンピックに思う

先月は冬季オリンピックがロシアのソチで開催され、大きな感動の中で閉幕しました。私はソチオリンピックでの日本選手の活躍に一喜一憂しながらテレビ観戦をしていました。ほとんどの競技が行われたのが、日本時間の深夜であったので、さすがにその時間まで起きて待つことも出来ませんでした。私、私はこの期間は、翌日の朝のテレビのニュースを見るのを楽しみにして過ごしました。沢山の感動をもらいましたが、スキージャンプの葛西紀明選手の話は、卒業式の式辞に述べていますので、この「道」ではそれ以外のことを少し書きたいと思います。

今回のオリンピックでは羽生結弦選手を筆頭に10代の若い選手の活躍も素晴らしかったし、メダルには届かなかったけれど、上村愛子選手、高橋大輔選手、鈴木明子選手など、すでにソチオリンピックを最後に引退するとして臨んだ選手にも大きな感動をもらいました。浅田真央選手のショートトの失敗の翌日のフリーでの完璧な演技も本当に素晴らしく、心からの拍手をおくりました。しかし、どの選手も日の丸や大きな期待や声援を肩に背負い、大変なプレッシャーの中で戦っているのだということ強く感じ、その中でギリギリの戦

ところで、冬季オリンピックといえば日本で始めて開催された昭和47（1972）年の札幌オリンピックも、平成10（1998）年に開催された長野オリンピックも一生懸命応援をしました。何と言っても私にとって最も深く印象に残っているオリンピックは、昭和39（1964）年にアジアで初めて開催された「東京オリンピック」です。ちょうど50年前のことです。

テレビ放送が開始されたのは昭和28（1953）年です。テレビが各家庭に急速に普及しはじめていた頃でしたが、この東京オリンピックをテレビで見たいということで、一層広く普及したのであります。現在10月の第2月曜日は「体育の日」と定められ祝日になっていますが、これは2000年にハッピーマンデー制度が定められてからのことです。もともとは東京オリンピックで開会式が行われた10月10日を記念して「体育の日」としたのが始まりで、その経緯を知っている人は少なくなってきているかもしれません。

さて、1964年の東京オリンピックですが、私はちょうど小学校6年生の時だったので、その時の感動や記憶は鮮明に覚えています。たぶん私の年代前後から上の世代の方々は同様だと思います。当時、日本は高度経済成長期の真っただ中で、「神武景気」、「岩戸景気」、そして「オリンピック景気」、さらには「いざなぎ景気」と好景気が続いている時期で、毎年の経済成長率が10%を越えていました。

政府の所得倍増計画も順調に進み、公害問題を始め、過疎過密、交通事故増加、受験戦争など様々な問題を抱えながらではありますが、急速に日本経済が発展し、日本中が活気に

いをしていっているということを改めて感じたのは、私だけではないと思います。

私が特に感心させられたのは、競技力や演技力など選手としての頑張りや言うまでもないのですが、彼らの競技以外のインタビューなどに対するコメントであります。特に競技後のインタビューにとっさに答えた言葉は、とても大切な意味を持ったものばかりで、選手たちの思いや人柄が伝わってくるものばかりでした。「家族や応援してくれた人や、支えてくれた人への感謝の気持ち」、「思うように出来なかったことへの悔しい思い」、「失敗をバネに次の大会では頑張ろうとする気持ち」、「東日本大震災の被災者の人達への励ましの言葉」、「これまで頑張ってきた自分への思い」、「苦しい中で頑張り続け、達成できた喜び」など様々ですが、私にはどのコメントも輝いて聞こえました。喜びを満面にたたえコメントする選手、喜びの涙や、反対に悔し涙を流しながらコメントする選手、どの選手も輝いていて、「よく頑張ったね」とテレビの画面に向かって声をかけたくなるような気さくさくさくです。

そんな中で浅田真央選手の、「元総理の発言に対するコメントにも感心しました。「もう終わったことだから何とも思っていない」「失敗したくてしているわけじゃないんで・・・」「今は森さんも少し後悔しているんじゃないかと少し思う」など相手を強く反撃するのではなく、インタビューの場を和ませ、悪く言われた相手をおもんばかり、場の空気を和らげるユーモア溢れるものでした。全ての選手たちやそれを支えてこられた家族やスタッフに大きな拍手を送り、これからの健闘を祈りたいと思います。

満ちた頃でありました。高速道路建設、東海道新幹線開業、各種の施設や競技場建設はもとより、歌や踊りまでもがオリンピック一色の祝賀ムードで、アジアで最初のオリンピックの開催に、日本中が沸き立ったのを覚えています。

日本は金メダル16個、銀メダル5個、銅メダル8個の合計29個のメダルを獲得し、アメリカやソ連（現ロシア）には及びませんでした。素晴らしい成果でありました。私にとつて最も印象に残っていることは、「東洋の魔女」と呼ばれた大松監督率いる女子バレーの金メダル、遠藤幸雄選手を中心にした男子体操での、団体総合・個人総合の優勝、三宅義信選手のウエートリフティングの金メダルなどでした。国民全てに喜びと元氣とを与え、敗戦国日本の復興を名実ともに達成し、世界中の国々にその存在感を発信したオリンピックでもありました。

昨年、2020年に開催されるオリンピックが再び東京で行われることが決定した時は、日本中が歓喜に包まれました。まだ6年後のことですが、元気でいれば一生の内、2度も東京オリンピック開催に立ち会えることになり、大変ラッキーで幸せなことだと思っています。今年の卒業式での生徒の送辞、答辞にも触れられています。来る2020年の東京オリンピックでは、スポーツ分野だけではなく、政治、経済、文化などあらゆる面で、世界の国々と良き交流が出来、世界の人々に喜んでもらえる、世界平和に貢献できるオリンピックになってもらいたいと思います。そして同時に日本の素晴らしさを世界に発信でき、日本や日本人にとつても素晴らしきオリンピックとなることを祈りたいと思います。

「ここから通っています」 学園生の故郷

赤磐市

赤磐市は2005年3月7日、赤磐郡山陽町、赤坂町、熊山町、吉井町の4町が合併し、岡山県の北東部に位置した丘陵と山林の市です。



温暖な気候によって豊かな大地、恵まれた環境の中で育つ「桃」が有名です。特に白桃は明治34年に誕生した品種で、外見は白く果肉は多汁で糖度も高いです。息子の祖父も昔は広大な桃畑で桃を栽培していましたが、今では数本の木だけ残し孫に食べさせるためにおいしい桃を毎年作ってくれています。

家の近所にある高倉山の裾野に広がる桃畑は桃の花が咲く頃は山裾一面を鮮や

かなピンク色に染め上げ、2001年「かおり風景100選」にも選ばれました。6月頃からは防蛾灯が黄色く灯り切りは幻想的な感じになります。



その他にも大國主之命（オオクニヌシノミコト）、手名稚之命（テナツチノミコト）足名稚之命（アシナツチノミコト）の三神をお祀りしている「足王神社」があり、春と秋の4月29日と9月29日には大祭があり「足の病気が治るように

……」「足が速くなるようにと……」と多くの方が訪れます。

また、あまり知られていないのですが、「両宮山古墳」という古墳があり全長206mで5世紀後半に築造され備前最大の前方後円墳で国指定史跡となっています。付近には廻り山や森山、茶臼古墳などが点在していて、この時代必須の墳丘の葺石が敷かれておらず、埴輪の列柱も見当たらないという大きな謎があるそうです。これを解くカギが日本書紀に記された稚姫（わかひめ）伝説といわれています。

特産品も多く、豊かな自然と文化遺産の素晴らしい市ですが、自宅から一番近い駅が今は岡山市になっています旧瀬戸町の山陽本線、瀬戸駅からの通学になり、片道2時間近くかかるのとこのことで寮生活をしている息子です。「甲子園初出場に主力選手として導く」と決意して学園に入学してもうすぐ1年、部活も勉強面でもかなり苦戦しているみたいですが、文武両道で頑張ってもらいたいと思っております。

高一の母 岩本 優子

早島町



早島町は岡山市と倉敷市の中間に位置し、平成の大合併にも耐えて町政を保持している人口約1万2千人の町です。昔は、海に浮かぶ島であり、「前潟、真磯、噂島、小浜、無津、塩津、長津」など、海にゆかりのある地名が各地に残っています。室町時代から干拓事業が盛んになり、現在の県道152号線（妹尾〜早島〜倉敷）が、宇喜多堤と呼ばれる干拓堤防であったと言われています。時代が進むにつれ、次第に南へ南へと干拓が進み、現代の早島湾の干拓につながっていきました。

今では生産がなくなりましたが、早島では、干拓地での栽培に適した草の生産が有名で、早島駅には写真の様な看板が設置され、夏には花ごさ祭りが開催されています。い草は、米の裏作として、冬の薄氷を割るように植え付けられ、真

夏の炎天下に刈り取られるという重労働の産物でした。江戸時代には、早島表として全国的に有名でした。明治時代には、多色織りの花むしろ「錦莞菴」が、隣の茶屋町で磯崎眠亀によって発明され、輸出品の花形となりました。昭和の頃までは、刈り取った草を泥染している様子を、町内で見ることができました。

現在の早島は、早島インターチェンジがあり、高速物流の拠点として発展しています。同様に、江戸時代も旧山陽道吉備津から岡山市大元、妹尾を経由する金比羅往來が早島で一つになり、藤戸・天城から由加山へ、田の口港から金比羅山への参詣ルートとして賑わいました。今も昔も、東西南北交通の拠点としての役割を果たしていたと言えます。

以前は、中学校の公民の資料集によく取り上げられていた早島での出来事があります。憲法第25条には、「健康で文化的な最低限度の生活」を保障するという生存権の規定があります。これをもとに、生活保護費の改善について厚生大臣を相手に「人間裁判」を闘ったのは、当時（昭和32年）、国立岡山療養所（現、南岡山医療センター）で療養生活を送っていた

朝日茂氏でした。我が国の社会保障の歴史において、大きな功績を残した氏を顕彰した石碑は、現在も病院への坂道の傍らに建っています。

さて、息子は、中学から6年間、金光学園でお世話になりました。特に、バレーボール部では、亀山精二先生をはじめ亀山洋司先生、石井秀典先生、先輩、同級生、後輩、また、保護者の皆様など多くの人々に恵まれ、人間として大きく成長させていただくとともに、数え切れないすばらしい思い出をいただくことができました。保護者としてこれ以上の喜びはありません。卒業を間近にひかえ、小学校からの進路の希望を実現することができ、親子共々、金光学園への感謝の気持ちが増しに高まって来ている毎日です。

高三の父 松本 一郎



伝える仕事

岡本(旧姓)・遠藤(寛子)

(高41回)



平成元年に金光学園を卒業し、岡山大学文学部哲学科に進学。大学卒業後、山陽放送(株)に入社、アナウンサーとして丸7年間勤めました。退職後はフリーアナウンサーとして現在も岡山県内を中心に活動しています。最近では担当する番組のほとんどがラジオです。映像も伝えられるテレビと違って、ラジオは音のみの情報となりますが、伝え方によっては、

聞く方のイメージを広げる事ができるという点でもとても豊かで、かつ、より日常生活に身近なメディアだと思っています。実際、震災のあった東北では、即時性の高いラジオが有効なメディアだと再認識されたという話も聞いています。さて、現在は『おかやま朝まるステーション1494(水)朝6時55分〜昼12時35分までの長い時間の生放送を受け持っています。ニュースを伝え、インタビューをし、フリートークをする。これまで少しずつ培ってきた力すべてが必要となる番組だと思っています。約5時間という長い時間を生放送で対応するのは自分にとって初めての大きな挑戦です。平成25年の秋から始まり、まだ手探り状態が続いていますが、リスナーの皆さんにより楽しんでいただき、信頼していただけるメディアの一つとなれるようにこれからも少しずつですが頑張っています。

アナウンサーとして話す仕事は、テレビやラジオなどのメディアでの放送だけではなくありません。企業などの周年式典や結婚式、イベントやコンサートでの司会など、会を司る場は多岐にわたります。大まかな流れは共通するものがあっても、

1回1回の方が全く違います。何事も起らず滞りなく進んでいくのが一番なのですが、進行とは違った出来事が起こってしまった時にどのように対処するか、司会者の力量が試されるころだといつも感じています。

そして、もう一つ。最初は自分の勉強のために始めた手話ですが、続けていくうちに、情報が届きにくい方にもきちんと伝えるということの重要性も感じられるようになり、平成18年からは岡山県と岡山市に手話通訳者として登録し、通訳活動も少しずつではありますが続けています。ただ、聞かえない方に伝える方法はなにも手話だけではなくありません。紙などに書いたりスマートフォンなどで文字を表示したりして伝える筆談や、口の形をしっかりと意識して動かして伝える口話など様々です。もしも聞かえない方が困っていらつしやる様子を見かけたら、手伝えることがないか尋ねてみてください。聴覚障害は「見えない障害」とも言われています。私たちは見た目だけでは聴覚障害の有無を知ることができないのです。「おはよう」と声をかけているのにいつも無視される…という誤解もよく聞

きます。聞こえる人にとっては当たり前のように入手できる情報が耳に入らないのが聴覚障害者にとって一番の障害だと思っております。

アナウンサーとしても通訳者としても伝える仕事は長く続けているのですが、人に伝える、ということはとても難しいことだと今も感じています。

そもそもアナウンサーを「職業」として意識したのは高校3年生の頃だったと思います。テレビを通して自分の言葉でいきいきと物事を伝えていく仕事に魅力を感じたのが最初でした。最終的にこの仕事を選んだのは、小学生の頃に教科書を朗読して先生に褒めていただいたことや、父が転勤族だったため様々な地域に転校し、各地の方言などに触れ言葉に敏感になったことも背景にあったのかもしれませんが、転校先では言葉(方言)が違うことだからかわれたりいじめられたりしたこともあります。それでも、時に言葉によって励まされ、また言葉によって傷ついた経験があったからこそ「人が伝える言葉には心を動かす力がある」と自然に思えたのではないかと今感じています。

す。

金光学園に転入したのは高校2年生の時でした。ですから、学園には実は2年間しか通っていません。それでもとても中身の濃い学園生活を過ごすことができました。親のように温かくそっと見守ってくださった恩師や今でもお付き合いの続く生涯の友と呼べる友人との出逢い、そして吹奏楽団では仲間たちと心を一つに合わせた演奏活動も経験できました。勉強ももちろんそれなりに一生懸命にしていたと思います。とても貴重で愛おしい高校生生活が過ぎることができました。卒業し社会に出てからも時折、著名人をお招きしてのトーク講演会などの司会や社会人講演、また今回はこうして『やつなみ』にも声をかけ



ていただくなど、今も学園とのつながりを持てるのは本当にありがたいことです。「人をたいせつに」と教えてくださる学園で学ぶことができて良かったと心から感謝しています。

こうして自分自身を振り返って思うのは、これまで経験してきた痛みや苦しみ、もちろん楽しさや喜びも全て自分の人生に無駄なもの一つもない、ということですね。そうした積み重ねがあったからこそ、よくもわるくも今の自分が形作られていると言えます。それは仕事のことだけではなく、それぞれの人生において「二つ一つ経験を積み重ねてきた結果が今の自分」と言えるのではないかと思います。私自身、これから起こる出来事をまた積み重ねていくことによってさらにその先の自分ができると思っています。こう書くことも抽象的な感じですが、今まさに起っている、そしてこれから先起こるであろうことを、常に自分の心と向き合いつつ丁寧に対応していくことを心がけていきたいらと思います。これからは「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」の精神で。

やつなみ保護者会へのページ

今号は、高三の保護者の方に、各方面から卒業にあたっての想いを書いていただきました。

歌に乗せた思い

音楽部保護者 高藤 和子

コーラスでは、毎年サマーコンサート
の終盤に、卒部する高3生が中心になっ
て歌う曲があります。「今船出が近づ
くこの時に」の歌
い出しで知られる
名曲マイ・ウェイ
です。今までを振
り返り、巣立って
いこうとするとき
に、自分の気持ち
を奮い立たせるよ
うな熱い思いが先
輩たちから歌い継
がれてきました。



今回は、サマコン10周年という節目の
年でもあり、舞台ではOB・OGを含めての
大合唱となりました。ラストのサマコン
でマイ・ウェイを歌うことは、コーラス
部員にとって、6年間の集大成でもあり、
新たな未来への一歩でもあるのです。

「私には愛する歌があるから
信じたこの道を私は行くだけ
すべては心の決めたままに」

これから先の人生で起こる様々なこと
に対して、まっすぐ自信を持って進んで
ほしいと願います。(一部、歌詞引用)

私の卒業

高3保護者 多和 清美

この春、娘は6年間の学園生活を終え
卒業しました。高校では探究クラスに進

み高大連携で大学の先生の指導を受け、
その縁で大学も決った事で、娘にとって
金光学園は中高大一貫教育の中核である
ものの、卒業は一つの通過点に過ぎない
のかもしれない。

しかし、私にとっては、やつなみ保護
者会の卒業であり、かけがいのない楽し
い6年間との決別です。「何故、保護者
会にはOB会が無いのか?」とつい思っ
てしまうほどです。

娘の入学早々、ソフトバレーに参加し、
吹奏楽の演奏会、野球の試合観戦、ほつ
ま祭、運動会と娘以上に学園生活をエン
ジョイしてきました。中3では地区理事
を拝命し、その縁で保護者会の旅行、ほ
つま祭での模擬店への参加等、多くの行
事に参加する機会を得、沢山の人と出会
い、貴重な体験をさせて頂き感謝といっ
ばいです。

中でも手作り会は毎年参加し、みんな
でワイワイおしゃべりをしながら金光ベ
アーを作っていくのは私にとって至福の
時でした。

ステンドグラスやマカロン作り等やり
たいことはたくさんあります。

「こんなに楽しいのなら、もっと早く

役員なればよかった。」と悔やまれてな
りません。

最後に在校生の保護者の皆様に一言。
「保護者の学園生活をしっかり楽しませ
よう。」

旅立ち

高3保護者 河野 万紀子

高校からの入学でしたので、知り合っ
もない中、学園生活に馴染めるかと不
安もありましたが、心優しい先生や学園
同士に恵まれ、3年間部活漬けで充実し
た高校生活を送ることが出来ました事、
本当に感謝しております。

高校生活の出会い、体験を大切にしてい
て、これからの自分の人生に明るく前向きに
失敗を恐れることなく何事にもチャレン
ジする人間に成長し、行動できる社会人
に成長してもらいたいと思っておりま
す。伝統ある学園での充実した生活が送
れましたこと感謝の気持ちで一杯です。
お世話になりました。

教養部編集後記

教養部部長 安原 芳里

入学の時から3年ないし6年。卒業生
24名の物語がそこにはあることでしょ
う。

私も、高3保護者ですので卒業です。
うれしいことですが、なんと、淋しいこ
とでしょう!!!

入学前から、学園の保護者同志は仲
がよいと聞いていました。

そうは言うものの、1年の時は、右を
見ても左を見ても知人はいないという心
細さがありました。

そこで考えたのが、学級委員を引き受
け、ママ友を作ること。

これは大正解でした。お蔭様で、卒業
の時まで、ずっと、皆さんが私を助けて
くださいました。

高1の時に、自分の入学時の心細さを
思い出し、「そっだ。中1のお母さんた
ちを手作り会にお誘いして、1人でも楽
しんでもらわなきゃ。」いろんな方に声
を掛けて参加の楽しさを呼びかけてきま
した。縦の交友関係が生まれました。部
活動のようです。(笑)
お仕事をしている方も、公私共に忙し

い方も、すべての皆さんに伝えたいのは、
子どもが楽しんでる学園生活。保護者
の私たちも、楽しまなきゃ。
共に育っていきましょ。

共に学んでいきましょ。
さて。

私。1年間、教養部という初めての分
野を担当させていただきました。

研修旅行は、60年に一度の遷宮を迎え
たばかりの出雲大社方面へ。

また、このコーナーへの原稿依頼。
ご協力いただいた皆さん、また、教養
部員の皆さん、旅行にご参加された皆さ
ん。

ありがとうございました。
「やつなみ」という冊子は子供たちの
活躍を伝える冊子でもあり、学園の様子
を内外にアピールする冊子でもありま
す。どこまでも広がり榮えゆく願いをこ
めて。

私の探究活動

～*～学園随想(70)～*～

森下 美穂

探究授業が始まり今年で8年目。探究授業を開始した年に私は一つのチャレンジを始めました。

きっかけ

私は探究授業のカリキュラムを考え進めていく委員会の委員長を任せられました。探究授業では論理的思考力や判断力、表現力を身につけさせるために課題研究を課しています。

大学を出て何年も経っていたので、私は研究の手法をもう一度学びたいと思いました。そんなとき岡山大学理学部のある先生に大学の授業を聴講生として受講したいという話をしたところ、その先生の研究室に社会人入学して勉強してはどうかというお誘いを受けました。そこで、校長にお願いして許可をもらい、社会人入学の試験を受験しました。

試験科目は入学後に行いたい研究計画の書類審査と面接でした。呼んでくださった先生からは、大学が社会に開かれたものになるためにも歓迎されるだろうというお話を聞いていました。しかし、面接官の先生方からは「本当に仕事と両立できるのか」「研究を甘く考えていないか」といった内容の質問をされ、期待とおりの面接とは違ったものでした。結局、なんとか入学を許可され、休日を使って大学院前期課程に通いはじめました。

研究テーマ

人類は太古の昔から、森林や湖沼、河川、海などの自然環境からさまざまな恵みを受けてきました。しかし、人類が繁栄するにつれ、その活動が自然環境を破壊し、汚染するという事態をうむようになりました。私は、水質汚染が生物に与

える影響について詳しく知りたいと考えていたので、アナジャコ類について研究することにしました。

アナジャコ類とは、甲殻綱・十脚目・アナジャコ科に属し、エビやカニなどに近い生物です。一般的に、河口や潮間帯に形成される砂や泥の干潟に、Y字型の巣穴を作り、その中で生息しています。種数については、熱帯域を中心に世界中に約140種、日本には、18種の生息が確認されています。アナジャコ類の巣穴は干潟の有機物を分解する表面積を増やし、水中の有機物をろ過して食べる懸濁食であることにより、巣穴内を水が循環するため、干潟の堆積物の性質、水の浄化や循環、栄養循環に大きく寄与することがわかっています。

私はアナジャコ類の中のヨコヤアナジャコという種を研究対象としました。ヨコヤアナジャコは、北は青森県陸奥湾から南は沖縄県西表島までの広域に生息する日本固有の種です。広域に分布するいくつかの種では生活史形質（成長率、成熟するサイズ、胚サイズ等）に緯度勾配に沿った地理的な種内変異が見られます。

研究室に保管されていた岡山県牛窓の個体の体長は大きく、沖縄県西表島の個体の体長は小さかったため、ヨコヤアナジャコにも緯度勾配に沿った地理的な種内変異が生じている可能性が考えられました。そこで西日本を中心に調査を行い、種内変異の実態と種内変異が生じている要因について研究を行いました。

調査の結果、ヨコヤアナジャコの体長は生息地の栄養条件の影響を受けることがわかりました。餌の多い干潟では成長率が大きく生存期間が長くなるため体長が大きくなり、餌の少ない干潟では成長率が小さく生存期間も短くなるため体長が小さくなります。瀬戸内海では富栄養化が進んでいるため餌量の多い干潟が多く、奄美大島や西表島等の南西諸島では



餌量の少ない干潟が多いため、緯度が高くなると体長が大きくなるようにみえる種内変異が生じていることが明らかになりました。

学会発表

研究経過はその都度、日本ベントス学会等の学会で発表を行いました。学会に参加する目的は、成果を広く還元するためと多くの研究者から助言をもらい研究の進め方が適切なものかどうかを検討するためです。学会では大学院生も一人の研究者として扱われ、対等な立場で多くの研究者から質問や助言をいただきました。韓国で国際学会があったときに、研究室の先生から出席するように言われましたが、英語での質疑応答に自信が持てなかったため出席を見送りました。後で考えるとへたな英語でも出席すればよかったと思います。出席すれば、日本だけでなく世界の研究者から助言をもらえる貴重な機会となったはずです。今は積極的に発信していけば、学会やメール等で世界各地の研究者から助言や指導を受けることができます。世の中には見識の高い方がたくさんいます。年齢を問わず

師と呼べる多くの研究者の方に出会えたことは私の一生の宝となりました。

最後に

岡山大学理学部の先生方には、平日の遅い時間や日曜日に授業を振りかえていただくなど多大なご協力をいただきました。そして7年半大学院で学び、理学博士の資格を取得しました。科学的に物事を捉え、答えのない問題を自分で解明していくことは本当に大変で、時には解析方法を検討するのに半年以上もかかりました。しかし、ずっとわからなかった問題が自分なりに理解できたときの達成感ほかに例えようがありません。ただ、学んでも学んでもまた新たな疑問がわいてきます。今後は生徒以上に自分が学び、より深みのある授業をしていきたいと思っています。

最後にご指導と多大なご助言をいただきました岡山大学理学部生物多様性利用科学研究室の三枝先生と研究室の方々に心より感謝いたします。



メタセコイヤ

中原 徹也くん 数学の森 in Kyoto
銅賞獲得!



高1中原徹也くんが、12月25日(水) 27日(金)に京都大学で開催された「数学の森コンテスト」に参加し、コンテストにおいて銅賞を獲得しました。このコンテストは、「数学の森 in Kyoto」の書類審査課題を解いて応募した者の中か

ら、全国で50名が選ばれて行われるものです。

参加者は、日頃からの数学能力の研鑽成果を試す課題や試験に取り組んで、その解説を聴いたり、教員と大学院生によるパネルディスカッションを聴講したりすることが出来ます。また、フィールズ賞を1970年に受賞した広中平祐名誉教授による講演会も開催されました。

参加者には数学オリンピックで入賞する人も多く、その中の銅賞獲得は立派です。中原くん、おめでとう！今後ますますのご活躍を期待しています。

「集まれ！科学好き発表会」 におごい活躍！

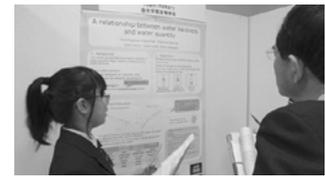
1月26日(日)に、岡山大学50周年記念館で「集まれ！科学好き発表会」が行われました。この大会は、科学に対する自由な研究や取組みをしている、科学が大好きという人のために、学校の授業で取り組んだことだけでなく、クラブ活動やグループ、個人での日頃の研究成果をポスター発表する機会を提供するもので、4分野32団体が参加しています。本校からは、数学クラブと化学ゼミが参加

し、ポスター発表を行いました。

数学クラブは、物理・数学分野にエントリーし、中3竹内勝己くん、中2松本大輝くん、中塚心愛さん、富田瑞貴さんが「見る力！ヒストグラムの不思議」というテーマで発表を行い、「奨励賞」を獲得しました。

化学ゼミは、高2相原響さん、井上愉加利さん、小林英里奈さんが「Teann Bakery」の硬度による水分量の蒸発量の差」というテーマで、All Englishで発表を行い、「さらに科学の目賞」を受賞しました。

多くの参加者に発表を聞いていただき、アドバイスをいただくことができたようです。数学クラブ・化学ゼミのみならず、おめでとう！今後ますますのご活躍を期待しています。



活躍おめでとう

《スキー》

中国中学校スキー大会に出場して

中2 西川 華

私は、1月28日から30日に鳥取県だいせんホワイトリゾートスキー場で行われた中国中学生スキー大会に出場しました。スキーがもつとまくなりたい、速くなりたいと競技スキーを始めてから、まだ日も浅く、大会の経験も少ない中での出場でしたので、とても緊張してスタートを迎えました。

回転・大回転とも自分はまだまだ力不足ということを思い知らされる結果でしたが、もつと練習に励んで来年度には良い結果を出せるようにしたいと思います。
《高校バレー部》
中国大会を終えて

高2 山内 基豊

レギュラー一人不在という状況で僕たちは試合当日を迎えることとなり、チームには少し不穏な空気が漂っていた。そ

んな中、初戦でチームが一つとなり勝利を勝ち取った。そして、強豪校である高川学園戦となった。接戦の中、何とか一セット目を先取し、勢いにのった僕たちは二セット目前半までリードしていた。



しかし、冷静であった相手に逆転され、続く三セット目も接戦の末、敗れてしまった。

今回の大会は、自分たちが次のステップへの成長するための課題が多く見つかった良い試合であったと思う。次の大会では、チームがベストコンディションで迎えられるよう、上位を狙いたい。

《囲碁将棋部》 来年へ向けて

高2 羽仁 豊

僕は、第22回全国高等学校文化連盟将

棋新人大会へ出場しました。大会は北海道の函館市で開催されましたが、都合上飛行機でなく新幹線を使って片道のみで16時間かけて移動をしました。

肝心の大会では、予選を初戦から3連勝し、最短で予選通過を決めました。しかし、次の予選4戦目、勝っても負けてしまったのが、大きかったのだと思います。勝っていた勢いや自信を失ってしまい、決勝トーナメント初戦で内容の悪い将棋を指してしまい、敗北。結果はベスト32で終わりました。

今回は、情けない結果になってしまい、お世話になってる人達に申し訳ない気持ちでいっぱいです。技術面では進歩したと思えますが、精神面での弱さが大きくてしまったと痛感しました。しかし、これからも「感謝の心」を忘れず、「全国優勝」に向けてあきらめずに頑張っていこうと思います。



ある日のホームルーム



高校一年一組



今回は、1月31日(金)7限に高校1年1組のLHRにお邪魔しました。4月から金光学園高校1年1組の一員として過ごしてきた、ハンガリーからの留学生、グレタ・アダムさんが2月に帰国するため、学級委員が中心になってグレタさんに内緒で送別会の準備が進められていました。そしてこの日のLHRが送別会当日。

7限、会場となっている高校視聴覚音楽教室に行ってみると、ホワイトボードには「グレタありがとう」のメッセージが。しかし、生徒が誰もいない……。しばらくすると担任の西山先生がいらっしゃいましたが、グレタさんを含め、生徒はまだ来ない。実はこれも計画の一部。その計画とは、西山先生が7限クラスに行き、生徒を叱って教室を出ていく。そ



のあと学級委員の呼びかけにより、先生を追いかけてクラスみんなで西山先生がいる高校視聴覚音楽教室に向かう。そこはあらかじめ準備していた送別会の会場で、今日が送別会と知らないグレタさんを驚かせるというサプライズパーティーの演出になっていたのです。そして何も知らずに入ってきたグレタさんが驚き、目に涙をうかべているところを見ると、この演出は大成功。



そして、送別会がスタートしました。まずは女子の有志によるコント。キャラクターや場面設定がおもしろく、テンポも良く、会場はいつきに笑い声で包まれました。次は女子全員によるダンス。クラスメイトの影響でグレタさんも好きになったというワン・ダイレクションの曲「ベスト・ソング・エバー」に合わせて自分たちで考えた踊りを披露しました。そして、次は男子の出番。最初にゲーム「じゃんけん列車」の説明と実演がありました。じゃんけん勝負した人が勝った

人の後ろにつながっていくというゲームですが、普通のじゃんけんとは違い、全体を使ったじゃんけん、グー・チョキ・パーのポーズが決められ、それを使ってじゃんけんをするというもの。初めのうちは恥ずかしそうにポーズをとる生徒もいましたが、慣れてくるとみんなゲームを楽しんでいました。そしてゲームで盛り上がった後は、男子による歌のプレゼント。山本君のピアノに合わせて男子全員で「ヘイ ジュード」の替え歌「ヘイ グレタ」を合唱。歌詞の一部がグレタに替わっており、男子全員がグレタさんの名前を力強く歌っているところに、グレタさんへの想いの強さを感じました。その後も、グレタさんの学校生活の写真をまとめたスライドの鑑賞や、クラス全員による呼びかけへと続きます。みんなこみあげてくる涙をこらえながら呼びかけをし、グレタさんも涙を流しながら聞いていました。生徒たちの様子をみていると、こちらも涙があふれそうになりました。生徒たちが別れを悲しく寂しく思うのは、それだけクラスのみんなとグレタさんとの関係が、素敵なものだったという証拠ですね。しばらくの間、



グレタさんとハグをしたり言葉を交わしたりしながら、別れを惜しんでいましたが、「最後は笑顔で送ろう」と、再び「じゃんけん列車」をすることに。するとあっという間に涙も消えみんな笑顔に。最後はグレタさんの挨拶と生徒たちの作ったアルバム贈呈。感謝の気持ちを、笑顔を交えながら、しっかりとした日本語でスピーチをするグレタさんの姿がとても頼もしく感じられました。

盛りだくさんの内容で、生徒たちのやさしさや思いのこもった、心温まる素敵な送別会でした。今回の送別会がまた一つ、双方の良い思い出になったことでしょう。グレタさんの帰国後の活躍・成功を心よりお祈りしております。

AFS留学紹介



こんにちは！
私はハンガリーから来た留学生です。私は

4月にこの学校に思い出と友達を作り、日本のこと、そして日本語を勉強するために来ました。残念ながら、この1年は早く終わってしまいました。

今まで難しいなと思ったこと、面白くて楽しかったこと、不思議なことや信じられないこともありました。

例えば、日本では2時間目の後、サンドイッチなどを食べるための休憩がないです。ときどきおなががすいてしんどかったです。

初めてみんなの前であいさつをした日は、私は今までで一番緊張しました。家で自己紹介を日本語で一生懸命練習しました。でも始業式の前に「英語で」と言われてびっくりしましたが、英語のほうで得意だったのでちょっとほっとしました。

た。

そのあとクラスのみんなに会った時に、たぶんみんな私が「Oh My God!」みたいな顔をしていたと感じたと思います。私はい子がいっぱいいると思います。特にちっちゃいかわいい女の子がたくさんいました。

日本の制服はすごくかわいくて、いつも着てみたいと思っていました。まだ似合っていないと思いますが、毎日毎日服を選ばなくてもいいから便利だと思います。

金光学園はとっても広いので、迷ってどこに行けばいいか分からなくなったり、友達がいとも助けてくれました。いつもすごく嬉しくなりました。来たばかりのころは、私は日本語がまだ分からなくて、みんなは私の英語をなかなか理解できなくて大変だったけど、お互いの言いたい事を分かりたくて一生懸命英語を翻訳するのはめちゃくちゃ楽しかったです。みんな頑張ってくれてありがとう！授業を受けないときには図書室に行って自分で勉強したり、本を読んだりもしました。毎週1回佐藤先生と西山先生と山本先生に日本語の授業をしてもらいま

た。私がどういう質問をしても先生方はいつも一生懸命答えようとしてくれました。

最初、どんなに勉強しても、単語から文をなかなか作れませんでした。そんなとき、佐藤先生はいつも丁寧に教えてくれました。毎回の授業で、どんどん日本語のレベルがあがったと思います。そして、西山先生が担任の先生でよかったです。西山先生の言い方はいつもとても面白いです！山本先生はいろんな事のやり方をいつも教えてくれました。佐藤先生、西山先生、山本先生！ありがとうございました！

みんなと一緒に過ごしてとても楽しかったです。面白いこと、One Direction や福山雅治のことなどいろいろ教えてもらいました。

金光学園が私の Host School で本当に良かったです。ありがとうございました。この学校でたくさんの方に出と友達を作りました。だから必ず戻ってきたいと思います。

学園のみんな、この1年間ありがとうございました！



中二合唱コンクール

『記録より記憶に残るコンサート』

二月十四日(金) 於 小体育館

心を一つに

1組 池田 朱里
合唱コンクールがあった。今年、1組として行く最後のイベントだった。合唱コンクールは、37人全員が主役になれるものと私は思った。

最初の練習の頃は、まったく心を一つにすることができなかった。真面目に練習する人も少なく、不安もあった。しかし、合唱コンクール実行委員会を中心に音楽の時間や放課後、ホームルームの時間に練習することが楽しくなっていた。この調子でいけば、と思ったが、インフルエンザや風邪での欠席が多くなり、クラスの全員でそろって練習することが難しくなった。私は、本番は必ず37人そろって出たいと思った。パフォーマンスでのバイオリンを聴いたとき、みんなのために頑張っている仲間がいるから、私も

精一杯歌おうと気持ちが入った。そう思ったのは私だけではないと思う。

そして迎えた本番。残念ながら37人全員で参加することはできなかった。出られなかった人の分も歌おう、と私は思った。1組は四番目だった。他のクラスは、歌声も響いていて、パフォーマンスもすごかった。自分たちの番がきたとき、とても緊張した。『cosmos』も『あとひとつ』も精一杯歌った。自分たちは支えてくださった感謝の気持ちを込めて歌いきることができた。歌い終わった後は、とてもスッキリした。全体合唱「怪獣のパレード」も歌いきることができた。これは学年の心を一つにできたと思った。

結果、1組は優勝す



ることができなかった。しかし、どのクラスにも個性があつてとても良かったと思う。

この合唱コンクールで、私は1組で良かったと改めて思った。

苦手を一つ克服した

2組 荻野 理彩
私はもともと人前に立つことが苦手でした。しかし、今回の合唱コンクールでは聴いてくれていた大勢の人々の前で堂々と歌うことができました。その理由はきっと私の1年間の過ごし方にあると思います。

入学して一か月ほど、何部に入るかとても迷っていました。悩んだ後コーラス部に入ることに決めました。当時、なんとなくという感じでしたが今では本当に大切な決断だったと思います。私はこれまで何十人も先輩と同級生に支えられ約15回の舞台に立たせてもらいました。初めてのコンサートはもちろん緊張しましたが、それ以上に達成感がありました。なんだか周りが一緒にいてくれるという雰囲気心が温かくなりました。私は大丈夫、できると自分に教えることができ

ました。

今回のコンクールでは36人の仲間とともに短い期間ながら一生懸命に練習に取り組んできました。学年で唯一ハモリを入れた曲を選びました。思っていたより難しく何日も苦戦しましたが、だんだん綺麗なハーモニーを作り上げていくことができました。いつもよりもっと真剣な雰囲気、団結力を感じました。絶対に成功させたいという想いがこみあげてきました。

本番直前、普通の顔をしながら心でもとても緊張でいっぱいでした。残念ながら、最優秀賞はもらえなかったのですが、一番大切な何かを感じることができたと思います。

苦手を克服することができて良かった。コーラス部員で良かった。このクラスで良かった。

中学1年生としての集大成

3組 松前 彩華

私は、中学1年生の集大成がこの合唱コンクールだと思います。なぜなら、私は、「受験」という困難を経験し、この金光学園に入学しました。そして、4

に初めて会った時、とても不安で緊張していました。しかし、すぐに友達ができ、喜びを感じました。また、それからほつまつ祭や体育会がありみんなと何か一つの事をなすとげる達成感、協力し絆を深める大切さを学びました。それを、発表できるのがこの合唱コンクールだと思います。

そうして迎えた本番。どのクラスも個性があり、歌っている人を見ると自分も歌いたくなるようでした。その中でも私の心に残っているのは「怪獣のパレード」です。後、少して中学1年生が終わり、その時、きっと私達は怪獣のように希望を持ち新しい道を進んでいきます。しかし、くじける事もあるかもしれません。怪獣にもあったはずです。そんな時、怪獣は自分の足跡を見ます。きっと私達にとって足跡とは今までに学んできたことだと思えます。そして、また歩き始める。そのくり返しだと思います。しかし、それでいいのです。そのような経験を積み重ねることにより強くなれるはずで。そのような思いを生徒一人一人が考えながら歌ったと思います。私はこの歌の意味、また、この歌をみんなが歌えたことが深

なり、みんなが何かに全力でうちこめるような学校生活を送ります。最後に4組のみんな、今までありがとうごさいます。感謝でいっぱいです。4組最高！

合唱コンクール

5組 上川 澁太

僕は、合唱コンクールが終わって、とてもホッとしました。でもホッとしただけでなく、悔しさや喜びなどいろいろな気持ちも入り混じっています。それはクラスのみんなとやってきからです。この合唱コンクールで特に、喜び、悔しさ、悲しさの3つの感性がとても印象強いです。

一つ目の喜びとは、パフォーマンス賞です。ほくちち5組は、パフォーマンスとして手話をするようになりました。その日から毎日練習し、友達と教え合いがらやってきました。そして、本番。今まで毎日練習してきた成果を出し切ろうと決めていました。舞台上立つと緊張して少し間違えてしまいました。でも、手話に対しての悔いはありません。それは、みんなと協力し合ってきたからです。二つ目の悔しさとは、欠席者がいたこ



4組の自由曲「PRIDE」はみんなが大好きな曲でした。課題曲もうまく歌えるように頑張ったけど、やはり自分たちで選んだ曲「PRIDE」が、歌っていて一番声が出ていて、何よりみんなが楽しく歌えていると思いました。その結果、団結賞をいただくことができました。そして、最優秀賞の発表の時、突然だったので何も考えていなかったけれど、4組が最優秀賞になったことが分かった時はすごくうれしかったです。

合唱コンクールが終わって、掃除が終わった後、教室が大歓声の中、一番喜んでたのは先生でした。

いつも4組はにぎやかで元気であるさいけれど、最後にこんな良い思い出ができて、4組でいられて良かったなと思います。今回の合唱コンクールで最優秀賞を取ることができたのも今まで練習してきて、団結することができ、楽しく歌えたからだだと思います。今日までの練習時間が4組の誇りです。今日感じたことを胸にしまって、先輩になる2年生に



く心に刻まれ良い思い出になりました。

そして、今まで支えて下さった家族には、ただただ、感謝の気持ちで一杯です。また、先生方、迷惑をかけたことも、一緒に喜べたこともどれも良い思い出です。この合唱コンクールが中学1年生の集大成で、本当に良かったと思いました。

4組の誇り

4組 岡村 菜々美

最初に合唱コンクールの練習をしたときは全然まとまらなくて、ふざけたり歌わなかったりしている人もいました。音楽の先生には毎回叱られて「このままで大丈夫かな？」と聞いていました。次の練習のときもその次の練習のときももちろん歌うことができませんでした。でも、本格的に練習が始まってから、先生や実行委員のみんなが頑張っているのを見て、私も「このままではいけない」と思い、前よりも大きな声を出すようになりました。

とです。5組は他のクラスと比べ圧倒的に人数が少なかったのです。そのため、ハモリが練習のように上手いかなかったり、声量が下がったりと、とても大変でした。その中で、今まで一緒に練習してきた仲間たちと同じ舞台上に立てなかつたことがとても悔しいです。

三つ目の悲しさとは、この合唱コンクールがクラスで行う最後の行事ということ。入学してから、今まで過ごしてきた5組も、あと一ヶ月ほどで終わると思うと、とても悲しくなります。でもクラスとしての思い出に、この合唱コンクールという素晴らしい思い出が増えました。

もう少して1年生も終わり、2年生になろうとしています。残された1年生の生活を悔いの無いようにしっかりと楽しみ、いつまでも、「最高の5組だった。」と、言えるように過ごしていきたいです。



修学旅行事前学習「チヨラ沖繩〜笑顔〜」

絆が深まった学年集会

1組 石井 暢

学年集会がありました。第一部「GAMA〜月桃の花〜」を見て思ったことは、戦争とは何なのかということをもたえさせられました。ただ戦争があつただけというように軽い言葉で表せないものだと思います。戦争は何の罪もない人たかも巻き込んでケガや病気または殺されたりしてしまつてとても悲惨でした。この映画の中にも目をそらしたくなるような残酷なシーンもたくさんあつてとても心が痛くなりました。またこの映画でも出てきたように戦争では人の命が簡単に奪われていくことにとても不快な感じがしまし



た。「なぜ戦争中に負傷した兵隊や民間の人たちに毒を飲まして殺してしまふのか」、「本当に殺す意味があつたのか」どうかは今になっては分かりませんが、僕は殺す意味はなかつたと思います。また、人の命を他人の人間が奪つてしまつてもいいのかと思ひました。このことから戦争は繰り返してはいけないものだと思います。

第二部は、各クラスが沖繩について事前に調べ学習をしたことをまとめ発表がありました。クラスの出し物では日米安全保障条約についての劇をしました。僕は米兵の役でしたがとても楽しく演じることができました。やはり練習でうまくいっている本番ではいくつか失敗などがあるのだと思ひました。けれどおそろく内容が伝わっていると思うので良かったです。

他のクラスの出し物もとても練習され

という言葉を改めて噛みしめることとなつたのです。が、私はこの映画を最後まで観ても、やはり戦争を身近に感じるものが出来ませんでした。私の心がどうか、そういうことも多少あつたのかも知れませんが、私はこの戦争だとか死だとかいふ言葉は間接的には(映画などの作品では)伝えることが出来ないのだと思ひます。

映画の最初の方のワンシーンで沖繩戦について尋ねようとしていたときに、多くの人が断つたり、追ひ返したりしてました。きつと治りかけていた傷口を思い切り(無理矢理)開こうとされていたからでしょう。過去を閉ざしていたい人とその閉ざされている過去を知りたい人という意欲のある人。人々はそれでも何とかお互いに知り合ひ、探り合つて理解を深め合っているのではないのかと思ひます。私も知りたい人の一人です。だからこそ、私は沖繩戦についての映画を観て「命どう宝」といふ言葉が心に重くのしかかつていたのかも知れませんが、

最後に、私は家族が大事です。他の何よりも、自分の命よりも大事です。だから沖繩戦のように、目の前で家族が倒

れていくなんて想像もしたくありません。しかし、いつ周りの人が死んでしまふか分かりません。私が明日、生きているかさえ分かりません。今は平和な日本も、何が起こつてどうなるかは誰にも分かりません。そんな不安ばかりのこの時代に私は生かされています。命がなければ家族にも友達にも誰にも会うことは出来ません。「命どう宝」。この言葉の本当の重みを知るための旅に出ている途中かも知れませんが、いつか必ず知ることが出来たら良いなと思うことが出来た一日でした。このことを心にとめて歩んでいきたいと思います。



改めて感じた「団結力」

3組 伊藤 晴香

浅口市市民会館金光で、『学年集会』がありました。前半では、「GAMA〜月桃の花〜」を見て、各クラスそれぞれ出し物を見ました。それから、涙そうそうを中学2年全体で合唱しました。

ていてわかりやすく面白かったです。また有志のエイサーは息がそろっていてもきれいでした。実行委員の出し物のクイズはとても難しかったです。だから僕は四問目で間違えてしまいました。1位から6位までには賞品があつたのでいいなと思ひました。でもその賞品のうち4位から6位はいろいろな利用券でした。この賞品には驚きました。この取り組みによって絆が深まつたと思ひます。この調子で中学3年生になりたいと思ひます。



命の重さ

2組 浪越 素子

「命どう宝」この言葉は私の心にかかってきました。戦争。それは人の命が簡単に失われてしまふ、人と人、国と国との醜い争いのことです。私たちの生まれるずっと前に起きた悲劇をもとにして作られた映画『GAMA〜月桃の花〜』を観て、戦争

映画鑑賞では、沖繩戦の過酷さを感じました。もし、自分がそんな立場になったら…と思うとすごく恐ろしくなりました。今の当り前は、昔にとつては贅沢といふことを実感させられました。戦争は何のためになるのか。人々の尊い命を犠牲にしてまで争うことなのか。考えさせられると同時に、今まで私を支えてくれている友だち、先生、家族を大事にしないといけないと思ひました。

次の各クラスの出し物。3組の私たちは〇×クイズを挟んで4番目でした。3組は劇をアドリブというチャレンジで行いました。台本に従わず、自由に表現することができてとても良いものができたと思ひました。実際の劇ではうまくいったし、クラスの呼びかけでは3組の「団結力」を改めて感じる事ができました。他のクラスでも小細工や衣装・演劇が工夫されていて、それぞれのクラスの個性が滲み出ていました。各クラスとても良い出し物ができていたと思ひました。

今回の「学年集会」を通して、沖繩には数十年前は戦争という悲惨な過去があることを実感して、二度とこんな人の命を無駄にするようなことがないように、

平和に近づいていきたいと思いました。
そして、この『学年集会』で創り上げた「団結力」をゆずり葉につなげて、3年生の先輩方を気持ちよく見送ってあげたいです。

挑戦した学年集会

4組 井手内 陸

この学年集会は、僕にとっても思い出深いものになりました。様々な面でもたくさん集会に関わることができました。

まず一つ目に、三線を弾いたことが心に残っています。全くもって初めて触る楽器で、うまくできるのかどうか、とても不安でした。でも、やはり楽器を弾くのは楽しくて、練習にも自然と足が向きました。実際、本番がどうだったかと言うと、そんなにうまくはできませんでしたが、何よりも楽しくやれたので良かったと思



います。ゆずり葉の会でも、何か楽器をしたいと思っ

ています。ゆずり葉の会でも、何か楽器をしたいと思っ

ています。

二つ目はクラス発表のシナリオを書いたことです。

それは、「浦島太郎」の話を思い出すことから始まりました。どんな話だったか、細かいところまで思い出せず困りました。でも、実際にシナリオを書いてみると、案外、気が楽でした。僕がどれだけ変なものを書いても、このクラスなら面白くしてもらえらるだろうと思っただけです。見ていてどうだったかは分かりませんが、僕はとても満足でした。照明係も初めての経験でしたが、良い経験になりました。

また、どのクラスも工夫がこらされていて、とても面白かったです。どうやらあんなに面白いことが考えられるの、不思議なくらいでした。

今回の学年集会で、学年全体がより一層結束し、より良い方向に向かっていくようになったと思います。次はゆずり



よりよい修学旅行へ

5組 友田 直陽

僕は学年集会を終えて感じたことが2つあります。

まず一つ目は映画「GAMA〜月桃の花〜」を見て感じたことです。何を感じたかと言うと、戦争の悲惨さです。この映画は、今まで見た戦争映画の中でも一番感じるものが多かったのです。たとえば、真吉が最後、岩につぶされて死んでしまったり、和子の鳴き声を止めさせようとして強く抱きすぎて死んでしまったりという場面です。映画の中で母親が、「何も悪いことをしていないのに」と言っていました。僕もその通りだと思いました。何も関係ない人たちが死んでしまったり、差別されることはあってはならないことだと思いました。沖繩は日本でも唯一、住民を巻きこんだ地上戦ということからは前から知っていましたが、こんなにもむごいものだと知りませんでした。改めて、自分たちが戦争のことをよく理解

し、後世に伝えていかなければならないと思いました。

二つ目は各クラスや実行委員の出し物についてです。どのクラスもとても面白かったです。実行委員の〇×クイズは、自分のクラスの出し物は、良い出来だったと思います。僕は劇で使用した巨大な指を作る係だったので、舞台には出ませんでした。他の人がキャストとして舞台に出ている時に、「がんばれ」という思いがしました。最後に、学年全体で歌を歌う時は、自分一人が見られるわけでもないのに、とても緊張しました。改めて、キャストの人たちがどんな思いで舞台に立っていたかということが分かりました。全体合唱も大きな失敗もなく終えることができました。

学年集会は楽しく沖繩のことを知ることができました。そして、今までよりもっと早く修学旅行に行きたいという思いが強



くなりました。修学旅行に行くまでまだ2カ月あるので、もっと沖繩について知り、より良い修学旅行にしたいと思っ

当たり前のご感謝

6組 金子 ゆり

私は本番直前まで沖繩についての劇が成功するかドキドキしていました。

私のクラスは「米軍と日本軍の違い」というテーマで、劇の内容は戦場に生えている一本の木が主役のものでした。小道具や音響など裏方の仕事の人と役者として、お互いに協力し頑張りました。少し準備がギリギリになってしまいましたが、心配していましたが、役者も裏方も観客の方々も楽しめたと思うので、劇が出来てよかったです。

どのクラスも面白く、沖繩のこともよく分かりました。先生の物真似やアニメが合成されていたりなど、充実した時間でした。

戦争映画を観て、私は本当に観てられないほどに胸が痛みました。ガマの中では子供は泣いたり、大声を出すだけで親や子供が兵隊に怒鳴られたり殺された

りされている場面を観て、何も悪くない人々がなぜこんな目に遭わなければならないのかと、激しい怒りがこみ上げてきました。改めて戦争をすることは、ひどく最悪なものだと思いました。

もうすぐ中学2年生の生活が終わりに近づいています。今回の学年集会を終えて「みんなが色々な意味で大人になった」と深く実感したと同時に、もうすぐ中学3年で最高学年になるんだという自覚を持つことが出来ました。私は学習面でも生活面でもまだまだ未熟なところが多いですが、毎日出来ることから一つずつ積み重ねていって、先輩らしい先輩になれるよう頑張りたいです。

今回の学年集会で、沖繩の修学旅行がとても楽しみになりました。毎日家族や友達と過ごして、自分の好きなことが出来るという当たり前のようで当たり前でないことを常に忘れず、自分の周りの人に感謝して毎日を過ごしたいと思います。



探究

授業報告



中三探究

☆ディベート

3学期はグループ対抗でディベート大会を行いました。まず、ディベートの説明を受けた後、グループに分かれて図書室の文献やPCを利用してテーマについての調査を行いました。テーマは1回戦が「救急車を有料化すべきである」と「遺伝子組み換え食品の販売を中止すべきである」、2回戦が「日本は軽減税率を導入すべきである」、「決勝戦が「日本はメタンハイドレートを実用化すべきである」です。



高一探究

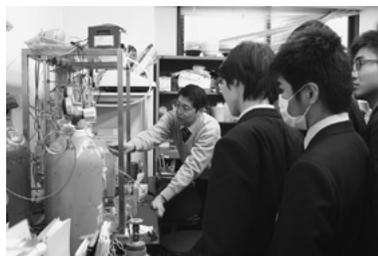
☆ゼミ活動

冬休みに各自が書いた研究計画書をもとに、文献検索や準備、調査、実験、観察などゼミごとに研究を進めています。各個人の研究テーマは、「エリザベス朝の英文学」「程度を表す方言の比較」「少年法の国際比較」「広島カープの経営事情」「流星の研究」「色素の紫外線による退色」「生物の分布調査」「歌うことによる生理的指標の変化」などを設定し、各自・各グループとも意欲的に研究を進めています。

☆1月30日には、文系ゼミは県立図書館に行き、自分のテーマに関する文献を調べました。



また、化学ゼミは岡山大学へ、情報ゼミは岡山県立大学へ行き、研究の進め方などのアドバイスをいただきました。その他のゼミも4時間連続のゼミということで、充実した活動になったようです。3月8日の中間発表会には大学などから先生方をお招きして中間発表会を行いました。



高二探究

☆探究Ⅱ

これまで取り組んできた研究の総仕上げとして、英文アブストラクトにも挑戦した研究論文を完成させました。理系ゼミは引き続き、3月8日の国際化発表会に向けて、ポスターと発表原稿を英語で作成し、英語による発表練習の特訓をしました。

校内発表会

☆探究Ⅰ中間発表会

3月8日、今までの研究成果をまとめたものをB4のレジュメを用いて発表しました。助言者からのアドバイスをもとに、来年度はさらに研究を深めていきます。

☆探究Ⅱ国際化発表会

3月8日、理系ゼミは英語のポスターを用いて、英語で今までの練習の成果を発表しました。各分野の専門の先生方や海外からの留学生に助言者としてお越しいただき、内容についての感想やアドバイスをいただきました。

校外発表会

様々な発表会やコンテストに参加しました。

☆集まれ科学好き

「ざらり科学の目賞」受賞
(化学ゼミ)

相原 響

井上愉加利

小林英里奈

☆日本物理学会主催 Jr. セッション

(物理ゼミ)

☆日本天文学会主催 Jr. セッション

(天文学ゼミ)

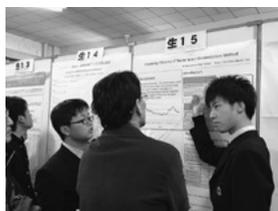
☆安田女子中学高等学校SSH研究発表会

(情報ゼミ) (生物ゼミ)

☆理数科理数コー

ス発表会(川ゼミ)

(スポーツ科学ゼミ)



表紙の言葉

中1 徳毛 なつみ

私は、この俳句からくたくたに疲れ、窓から差し込む西日の下でうとうとしている夏の部活動の帰りを想像しました。先輩方は卒業式を迎えました。私はこの絵の座っている人を自分に置き換えて学園帰りの気分浸ってほしいと思います。私は、部活動でつかれて家に帰る電車の中で西日に当たりながらついうとうとしてしまう自分を表現しました。その表現の中で特に工夫をしたのが夏の夕方に降る強い西日です。だから、ほっぺをピンクにして差し込む光をオレンジっぽくしました。しかしこの光の色がとても難しかったです。全てオレンジっぽいのではなく、微妙に色を変えました。

この作品を見てくれた人も、学校のことを思い出してくれたらと思います。

生徒入賞作品

▼中学校第59回青少年読書感想文 岡山県コンクール 県入選

『輝く道』

中3 4組 豊田 茉佑

就職氷河期。そんな言葉はもう聞き慣れているが、それにまつわるニュースといえは、対象は大学生ばかりだ。ところが、現実には高校生にも厳しく降りかかる。大卒以上に、高卒の就職は難しい。中卒で働いている人に至っては、職種は限られてくるだろう。

最近テレビで、中学校を卒業してすぐ、京都で舞妓をしている若者のドキュメンタリー番組を見た。私と一つしか年の変わらない女の子が泣いて笑って、夢を追いかけていた。競争も激しく、私が想像できないくらい大変そうだった。その人はこう言っていた。「もしかしたら今、普通に女子高生だったかもしれないと思うと、何か変な感じもする。」

に迷わなくていい。その夢を叶えるために、ただひたすら努力すればいい。テストの前、
「もう勉強したくない。」
とか、
「あと7年も勉強しないといけないんだ、嫌だな。」
と嘆く度、親はいつも、
「じゃあ働く？中学出たら働けるよ。大変だよ。勉強する方がよほど楽でしょう。」

と言う。そう言われてやっとなつてきた。私がいとも言っている「夢があればなあ……。」というのとはただの逃げでしかなかったのかもしれないということに。夢があつて、修行をしたり、専門学校へ行ったりする人は、ただ出された宿題をやっている人より大変なはずだ。将来のことを考えるのは私にはまだ難しい。頭がこんがらがってしまう。三冬と3歳しか変わらないのに。

三冬は途中まで、なかなかうまくいかないことが多かった。たくさん試験に落ちて、それを担任のせいにしている。親にも八つ当たりしている。しかし最後は、無事に内定がとれる。三冬の素直なところ

それを聞いて、「進路を決める」というのは、字の通り「進む路を決める」ということだと思つた。選択した進路で、人生が変わる。結構、こわいことだと思う。私は今中学3年生だ。選ぶ高校によっても、大きく進路が変わる。工業科に行つたり、商業科に行つたりと選択にも幅がある。私は普通科の高校に行きたいと思つている。今まで同じように15年間過ごしてきたのに、これからははつきり違う道を歩むことになる。中学校の同級生はほとんど普通科に進学するけれど、幼稚園の同級生などは本当に進路がバラバラだ。ある友達は、水兵さんになるための学校に進学するという。20歳まで通うそう。自分で進路を決めたその子は、

同じ年に見えなかった。まぶしかった。決断は大変だったかもしれないし、これからは大変なことは多いと思うが、少し羨ましく見えた。

この本の中では主人公の三冬が、履歴書を書くシーンがたくさん出てくる。私

ろが、最後の最後で功を奏した。私はいつの間にか、三冬に自分を重ねていた。三冬はいつも迷っている。私も今、迷うことばかりだ。今通っている塾よりもっと厳しい塾に行ったら成績が上がるかもしれないとか、部活動を辞めたいけれど辞めたら気まずいとか。15歳の私にとっては大きな問題だ。しかしいつか、「あんな小さなことで悩むなんて、自分、若かったな。」と余裕で笑える人になりたい。そのために、ちゃんと自分で進路を決めたい。校正のアルバイトをしていた三冬は新聞社に内定を決めた。小さい頃から雑誌ばかり読んでいたところはモデルに進路を決めた。共通点は「好きなもの」私も今のうちに色々な世界を見て「これだけは譲れない」というものを探しておこうと思う。輝く自分になるための道、それがシャインロードだと思うから。

『はなちゃんの強さ』

中1 2組 家島 彩花

「ママ、おっぱい、ちよきん買って切られたの？痛かった？おっぱい買ってあげなね。」

自身は履歴書を書いたことはないが、2つ上のいとこが芸能プロダクションのオーディションを受ける時に、応募するのを手伝ったことがある。志望動機とか、自己PRとか、いちいち大きな枠がとってあって「こんなに書けないでしょ。」と思つたことを覚えていて。そもそも、自己PRとはどんなことを書けば満点なのだろうか。志望動機なんて、一行で終わってしまう。この履歴書を受け取る人達は何を求めているのか。全く分からない。何を書けば、どんな写真を送れば合格になるのだろうか。

「百点がとれる履歴書があるなら見てみたいね。」
と、私といとは頭を抱えたものだ。三冬と同じだ。「努力の方向」が分からない。私は芸能界に詳しくないが、芸能プロダクションの場合は顔が群を抜いて良ければ受かるのかもしれない。けれど、三冬みたいに普通の会社の場合は、何が重要なのだろう。学歴なのか、それとも志望動機か。私も7年後にはこの壁にぶちあたってしまうのだろうか。

私には、将来の夢がない。夢があれば、今からそのための勉強ができるし、進路

乳がんで片方の乳房を無くしたママ。その傷口をやさしくなでながら、はなちゃんはママに約束する。

私は、はなちゃんはなんて優しいのだろうと思つた。抗がん剤で髪の毛は抜け落ち、痩せ細るママ。どんな想いを抱いていたかわからない。それでも、精一杯ママを気遣うはなちゃん。私の胸がぎゅつと苦しくなった。

私は、ノンフィクションの本が大好きだ。ありえない奇跡。主人公の努力。そして夢をやつとつかんだ時の感動が次々に練り広げられて、片時も飽きさせない。

この本は、小学校の卒業式の日、担任の先生からすすめられた。「先生は『はなちゃんのみそ汁』という本を買いました。読んでいくうちに、先生の娘とはなちゃんが重なって、先生、男なのに、泣いてしまった……。すくくいい本なんだ。小学生には少し難しいかもしれないけれど、中学生になったら、読んでほしい。忘れるなよ。」と。

私は読み始めるとすぐにのめりこんでしまったが、最初から乳がんの宣告。悪性腫瘍、左乳房の全摘出、左脇リンパ節の切除。目を覆いたくなるような言葉た

ち。恐ろしい現実。千恵さんは、どんな思いで聞いていたのだろうか？そう考えると、つらくなり、もう読むのをやめようかと何度も思った。もしも、自分の大好きな人が命にかかわる病気にかかってしまったら。私にも経験がある。

私にはすぐく不器用な祖父の、「野菜のじいじ」がいた。いつも、家の畑でとれた新鮮な野菜を白い軽自動車で届けてくれていた。手先が器用で、家の表札にぶどうを彫り、机やおぼんを作り、お皿や碗にも細かい模様を彫っていた。でも、「野菜を持ってきたついでにだ、ホラ」と差し出してくれたのは、かわいいポチ袋に入ったお年玉だったり、「たまたま通りがかっただけだから」と言っていて、きれいに洗った野菜などを袋にいっぱい入れてたりした。気持ち伝えるのが下手な祖父だった。そんな祖父が、私が幼稚園に上がる少し前に、脳梗塞で倒れた。頭に水もたまつて即手術。なんとか助かったものの、歩けなくなってしまう、はっきりと話すこともできなくなってしまう。老人ホームに移ってから、私はたまに祖父に会いに行った。一緒に絵を描いた。白髪が少し抜けてきた頭をとかした。

小学校に上がってからは、車いすも押しだし、ごはんも食べさせてあげた。そして祖父は、私が行くと嬉しそうに笑い、帰り際に泣いてくれた。少し聞きとりにくいけれど、話もできるようになった。私を指さして、「まじ」と言ってくれた。帰る時は、必ず手をふって握手をした。とても優しい、自慢の祖父。

けれども、私が小学4年生にあがったころに、祖父は体調をくずして入院を繰り返すようになった。大好きだった甘納豆も、おまんじゅうも、欲しがらなくなった。とても心配だった。それでも祖父は、点滴を自分で抜いてしまったり、車いすに乗ろうとしてベッドから落ちそうになったりと、病院の先生を困らせた。そんな姿を見ると、ああ、心配はいらないなと思った。そして、病院から帰る時、祖父とあいさつをした。「じいちゃん」「はい」「今日は帰るからね。また来るから、待っててね」「おう」これが最後だった。

8月9日、私の大好きだった「野菜のじいじ」が亡くなった。お葬式は私の誕生日だった。それから1年がたつが、今でも思い出すつらい。

はなちゃんは、一番甘えたい時期にマ

マが亡くなって、本当に悲しい思いをしたのではないかと思う。そんな中でも、お父さんをはげまして、料理を作っていて、すごく心が強いなと思う。それでもやっぱりつらくて、千恵さんの祭壇の前で、「ママがかわいいそう。なんで、はなを残して死んじゃったの。ママ、ママ。」と声を出して泣いたそう。でも、決して「寂しい」とは口にしなかったらしい。どうしてそんなに我慢するのか私には分からなかったが、読んでいくうちに分かってきた。はなちゃんは、お父さんに悲しい顔をしてほしくなかったのだと思う。「パパ、泣かんで。パパが泣くとはなも悲しくなるやんか」はなちゃんの優しさで心の強さを感じた。私もそう。だから泣いていたり、悲しそうな表情をしている人がいると、自分まで悲しくなってくる。だから、とりあえず笑顔になつてもらいたくて必死になる。

はなちゃんの人を元気にする力はすごいと思う。私は、はなちゃんのように上手くはできないけれど、すこしでも多くの人に笑顔で過ごしてもらえるように、楽しい絵をたくさん描きたいと思う。

『手で笑おう』

手話通訳士になりたいを読んで

中1 2組 西江 天志

「手話」って、何だろう？

「手話」って、どうやってやるの？

小学3年生だった私は、何も知りませんでした。

私の家の近所に耳の聞こえない家族が住んでいて、初めて手話を見たのです。腕や手、指がものすごいスピードで細かく動き、口もパクパク動いていて、私は、まばたきができないくらいジーと見てしまい、驚いてしまった事を覚えています。

ある日、耳の聞こえない友達と、外で鬼ごっこをしようとしたけれども、なかなか始められず、説明しようとして鬼のような怖い顔をして頭に指でつものようにしてのせてみたり、走るまねをしたりすると分かってくれました。

「あー！」その時、これが手話なのか？手話があると、相手は自分の言っている事がよく分かるのかな？と思ったのです。

その子と、いっぱいいっぱい遊びたいなと思うようになり、母と一緒に手話講座に行つて勉強する事にしました。その

時から、テレビで手話をやっていたり「手話」と書いてあったりするのを見ると、目がとまるようになり、この本の題を見た時も、手に取っていました。

主人公である、アン・マリー・リロン

ストロームさんは、耳の聞こえない両親と、ろうの人ばかりいる住宅で暮らしていました。耳の聞こえるアンさんは、手話を自然と使えるようになり、みんなから頼られる存在でした。ところが「ポリオ」という病気になってしまい、自由に歩くことができなくなり、初めて色々な人から助けられる立場になりました。手話の世界で育ったアンさんは、たくさん困難にぶつかりながら、中学・高校を卒業しました。やがて、ろうの人と健聴者をつなぐかけ橋になりたいと思うようになり、手話通訳士を目指して頑張る姿が書かれている物語です。

路面電車がやってくる場面で、アンさんはお母さんから「電車が来たら、完全に通り過ぎるまで動いちゃだめよ」と言われていたのを思い出して、「耳でちゃんと聞いているから大丈夫よ」と、答えると、信じてもらえなかったそうです。お母さんは、まわりで何が起こっているの

かを知るのに、耳ではなく、目を使っていると書いてありました。

私は、不思議に思いました。健聴者にとつて目や耳を使うという事を意識して使う事はなく、自然と音が入ってきて、今、電車が遠くにいるな……だんだん近くにやってくる……と、感じているからです。ろうの人にとつては、目がとても大切であり、アンテナのように神経をとがらせて生活しているのだと思いました。その時、手話を教えてもらっている先生の話を思い出しました。

車の運転をしている時、後ろ・横・車の様子など、目でしっかり見ているので疲れると、話されました。私は、まるで後ろにも目がついているみたいに、目を使わなくてはいけない生活は、自分にはできない事だと思いました。

ポリオの病気でアンさんが入院している時、お母さんは、アンさんが手話で話そうとしたら怒り、手話を使わなかったと書いてあるところで、私もアンさんが感じたように、お母さんは耳が聞こえない事を恥ずかしく思っているのかな？と思います。手話を使っているのを見られたら、病院の人達から変な目で見られ

ると思っただけではないだろうか？アンさんに恥ずかしい思いをさせたたくない、周りから変な目で見られたらかわいそうだと思いますのかもしれない。

私は、手話を使っているのを見ると、どうしても珍しくてジロジロ見たり、気になつてずっと見たりしていました。アンさんのお母さんの思いを考えたら、ろうの人達にとっても悲しい思いをさせていたのだと、反省しました。

本の最後に、とても印象的な言葉が書いてありました。『手話って、すごい言葉なんだよ！』手話は、私の「心の言葉」なのだから……』

手話を勉強していて一番強く私が思ったことは、手話は、ただ手や指で表現するのではないという事です。ろうの人達は、役者のように顔の表情を変え、手を動かす速さやリズムで健聴者が使う以上に、心をこめた言葉を生み出しているように思います。そして必ず相手と目と目を合わせて手話をします。まるで、心と心を結ぶように……ろうの人達が手話をしている姿はキラキラしていてとてもすてきな事です。手話は、とても難しいけれど、本当に心のこもった言葉だと思いに思えた。

自分が亡くなる事をかなり前から知っていて、亡くなる直前に用意して書いた物だったのかもしれないと思えた。ただ、今は、それが問題なのではなく、なぜ、おばあちゃんは、ここまでして、こんなにも強く、「魂は本当にあるのだ」という事を、まいに知ってほしかったのか。私にとっては、その方が大切な事のように思えた。

読書後もずっと考えていた。そして、おばあちゃんは、まいに「魂の成長」をしてほしいということ传达了かかったのではないかと私なりに考えた。

では、「魂の成長」とは何だろうか。調べていると、魂とは、心の事だと辞典に書いてあった。つまり「魂の成長」とは、「心の成長」なのだ。

そして「心の成長」に必要なヒントは、魔女になるための修行に隠されていると私は思う。それは、意志の力。自分で決める力。自分で決めたことをやりとげる力なのだ。つまり、魔女になる事は、何があっても、足元が揺るがない、心の強い人になる事ではないだろうか。

「成長」と言っても、赤ちゃんが一晚で、大人になるような、そういう急な成

ます。

アンさんのようには、私はなれないけれど、手話をこれからも、もっともっと勉強して、ろうの人達とたくさん心の会話ができるように、続けていきたいです。

『素敵な魔女になりたい』

中1 1組 梅村 美稀

西の魔女とは、主人公まの祖母の事だ。中1で不登校になったまは、この祖母の家で心を休めるために、短いけれど、とても意味ある時間を過ごす。

魔女の修行は、ハリポッターに出てくるような、呪文のかけ方や、ほうきの乗り方ではなく、掃除や洗濯、料理などを、とても丁寧にして、規則正しく生活する事だったので、何かが私が最初に考えていたイメージとは、違った。

その中で、私が気になったのは、2人の会話に何度も出てくる「死」についてだ。

飼っていた鶏が獣に殺された夜、まは、「死」について、おばあちゃんに尋ねた。すると、おばあちゃんは、まいにこんな話をした。魂と身体が合体した物が、まい自身である事。また、魂は肉体

長ではなく、小学生の私にはできなかったけれど、中学生の私にはできる事。たとえば毎日風をひかないように学校に通う事。英語の宿題をやる事。一人で電車に乗れるようになった事。制服のブラウスに自分でアイロンをあてる事。プラスとマイナスの計算ができるようになった事。他にもまだまだたくさんある。些細な事だが、全部を自分の意志で、毎日続け努力して、頑張っている事だ。これを「成長」というのではないだろうか。私もこれら続ける事で、「魂の成長」してみたい。

実際2年後、まは、まだ魔女になってはいなかったが、学校に毎日通い、おばあちゃんの教えを忘れる事なく、自分で決めた事に粘り強く取り組む努力をしている結果、シヨウコという个性的で、素敵な友達を作れたまは、頑張れる子になっていったのだ。その姿は確実に前より成長していったのだ。

この本は、私にとって、まだ謎に満ちているが、読み終わった後、なぜか、あたたかく頑張ろうという気持ちになった。それは、もしかしたら、西の魔女の魔法なのかもしれない。魔女になる事は、心の強い人になる事だと私は私なりに

を持つ事によってしか物事を体験できず、この世に生を受けたという事は、魂を成長させる機会であるという事。そして、魂も成長したいと望んでいるのだという事。

また、ある朝、夢の話で、「ああ、死んで魂が身体を離れる時ってこんな気持ちなのかなあ、と思っただの。」とまはが言った時、おばあちゃんは、「それなら死んで魂が、身体を離れた時、まいに知らせてあげますよ。」という約束をしたのだった。

そして、おばあちゃんは、亡くなる時に、「とっておきの魔法」で、まいとの約束通り「ニシノマジヨカラヒガシノマジヨヘオバアチャンノタマシイ、ダツシユツセイコウ。」というメッセージを、ガラス窓に書いてくれた。その瞬間まは、おばあちゃんのおふれんばかりの愛を降り注ぐ光のように身体中で実感した。つまり、おばあちゃんは、確かに魂は存在するのだという事を、自分の死により、まいに証明してくれたのだと、私は思う。正直まいには悪いのだが、私には「とっておきの魔法」は信じられず、もしかしたら、これは、おばあちゃんが

に考えた。私は、まだまだ、努力しなければならぬと思う。素敵な魔女になれるように、日々努力して頑張ろうと想う。

入賞おめでとう

▼浅口市

平成25年度 人権啓発標語

最優秀賞 中2 石田 悠乃
中2 小出 尚寛
中2 小林 柚穂

▼第64回社会を明るくする運動

優秀賞 中2 渡邊 菜月

▼第27回感動作文コンクール

学校奨励賞受賞

▼第11回永瀬清子賞

優秀賞 中2 才野 隼
佳作 中3 藤原 南

▼第12回SEITTO百人一首短歌コンクール

入選 高2 尾崎 晃士

生徒会活動

《中学生徒会》

次年度の生徒会を担う生徒会長選挙が1月8日に公示され、中1・2の10クラスから14名（男子13名、女子1名）が立候補した。15日の立会演説会では、政策や公約と共に候補者の熱い思いが訴えられた。公約には食堂利用時間の自由化や大雨警報時の休校、黒タイツの復活など生徒目線の公約が目立った。18日の公開質問会に続き、21日の投票の結果、会長に2年の堀啓造くん、副会長に2年の澤田夕珠姫さん、1年の中原悠蒼くんが当選した。認証式後、1月28日に新事務局員募集のための説明会を行った。中1・2から20名以上が参加をした。しばらくは希望者と現事務局員と一緒に活動し、3月13日の春季球技大会や3月18日に行われる中学ゆずり葉の会などの準備の中で、段取りや運営の仕方を身に付けていく。最終的には新年度になってから新

事務局員を決定する。

3学期の常任委員会の活動はまよめの時期であった。生活委員会では、朝のあいさつ運動、ポスター作製に取り組んだ。図書委員会では、お勧め本や人気のある本の紹介と、図書室のマナーについて呼びかけるための「だより」を発行した。保健委員会では、健康観察の実施、教室内における二酸化炭素の測定、掃除用具の点検などをおこなった。

《高校生徒会》

1月31日、第2回生徒会総会が小体育館で行われた。学年代表者会議・各種委員会・生徒会主催の行事および生徒会執行部・事務局の活動総括について報告され、賛成多数で承認された。

《部活動》

中・高新聞部 2月28日発行のほつま新聞第195号の作成した。

天文気象部 11月から12月にかけて、木星とイオの観測を合計3回行い、そのうち2回は天候に恵まれ、イオの食データを得ることができた。

2月、SSH生徒研究発表会の「木星の衛星イオと光速速度」の研究内容が評価され、岡山県教育委員会より岡山県学校

文化関係表彰を受けた。

木星とイオの研究は、今後も部のテーマとしても継続して研究を進めていく予定。3月には、美星天文台での研修や天文学会ジュニアセッションへ参加した。

生物部

11月16日、17日に倉敷ライフパークで行われた「青少年のための科学の祭典2013」に「煮干しの解剖」で参加し、多くの方に実験を体験してもらった。現在準備を進めている「ブッポウソウの研究」のため12月に岡山大学の研究室を訪問した。3月に岡山大学で行われる「ブッポウソウ・シンポジウム」に参加。また、「ヒライソガニの研究」のため3月に笠岡湾に行き、活動した。

電気科学部 コンピュータを使い、プログラミングや3Dグラフィックスなど、自分で課題を見つけそれぞれが頑張っている。3月の発表会への取り組みを行った。

中・高校美術部 教祖生誕200年の祝賀看板を依頼され、中高合同の美術部員で看板2枚を制作した。その看板はアーケードの本部階段近くに設置されている。

中・高書道部 成田山競書大会や熊野ふれあい書道展などに出品した。冬の17時下校では時間を惜しんで筆ペンの練習に

も取り組んだ。

茶道部 11月23日（土）に竹園会が碧水庵で行われ、日頃の練習の成果を披露した。3月21日に玉島交流センターで、玉島高校との交流茶会を行った。

音楽部吹奏楽団

11月16日に、富田デイサービスセンターにて訪問演奏を行った。「あまちゃんオープニングテーマ」きよしのズンドコ節「青い山脈」「川の流れるように」他を演奏した。11月17日には、浅口市民会館金光での第27回金光町音楽祭に参加し、「Don't stop me now」「You can't stop the beat」他を演奏した。11月23日には、倉敷市市民会館にて行われた第37回バンドフェスティバルに出演し、「Joy」他を演奏した。12月18日には、水島協同病院にて訪問演奏を行った。

「Believe」「You can't stop the beat」「ジングルベル」「さつめさつめ」「ふるさと」「きよしのズンドコ節」他を演奏した。12月21日は、寿光園にて訪問演奏を行った。「ジングルベル」「青い山脈」「きよしのズンドコ節」「北国の春」「Believe」他を演奏した。1月13日にはアンサンブルコンテストにクラリネット五重奏が「メリー・ウイドウ」、打楽器三重奏が「ト

リオ・パー・ウノ」で参加し、どちらも銀賞を受賞した。1月25日には、倉敷市市民会館で行われたジョイフルコンサートに参加し、「ジャパニーズグラフィティIV 弾厚作作品集」を演奏した。2月11日には、ベルフォール津山にて行われるインテリジェンスコンサートに出演した。

音楽部コーラス

11月17日に浅口市市民会館金光大ホールで開催された、第27回金光町音楽祭に参加した。丁寧に歌い上げることができた。【曲目】「輝く月のように」他 12月11日にオーストラリアから来日したメリッチカレッジの生徒歓迎会に参加し、「ふるさと」など日本の四季に関わる歌を共に歌うなど国際交流をすることができた。

12月20日に部内のクリスマス会を行った。

12月25日に玉島保育園で訪問演奏を行った。柏島保育園の園児も来られ、3歳児から5歳児まで約70人が聴いてくれた。童謡やクリスマスソング、アンパンマンの劇を交え、一緒に歌や手遊びをして楽しんだ。

1月25日に倉敷市市民会館で開催された第57回高梁川流域音楽会ジョイフルコン

サートに参加した。新たなメンバーを加え、元気凛冽なステージとなった。なお、『今日の空を忘れない』は本校卒業生でシンガーソングライターのおおもと友子さん作詞・作曲によるものである。【曲目】『今日の空を忘れない』『もったいないとらんど』

2月2日に倉敷市芸文館で開催された第21回岡山県ヴォーカルアンサンブルコンテストに参加した。ジュニアの部に3団体、高校の部に男声と女声、それぞれ1団体が挑戦した。ジュニアの部（中2・1）と高校の部の女声が金賞を受賞することができた。どちらのグループも、集中力のある練習を重ね、自分たちの歌を楽しみながら曲を作り上げることができた。以下結果とそのグループの曲目。

《ジュニアの部》

金賞 『ひやふ』『どんぶかつか』

銀賞 『あかな一家』『キジモン』

銅賞 『山丘でそよ風吹けば』『このゆびとまれ』『チョッパー』

《高校の部》

金賞 『涙の樹』『種子はさへびる』

銅賞 『ペーペーぬ草』『おおさむこさむ』

英語部 部員は現在、高校2年生8名(男子3名、女子5名)。「受験生」としての1年が始まった3学期は、それぞれの自主学习に取り組んでもらうため活動は休止中である。個別の質問に応じている。

写真部 コンテスト・ほつま祭に向け、各自で撮影に取り組んでいる。

中放送部 昨年11月、浅口市金光町の「植木」をテーマに、「第2回晴れの国おかやま映像コンテスト」の「岡山わが町自慢部門」にCMを出品。審査員特別賞を受賞した。12月には、浅口市長から感謝状が贈られた。また、1月は生徒会長選挙へ向けて、政見放送を制作した。

高放送部 高1・高2の部員で2月15日に市民会館金光で開催された高2音楽選抜者の発表会に協力した。また、3月8日に開催された国際化の発表会にて、2年を中心に司会の仕事などを行った。

囲碁将棋部 1月31日～2月1日、北海道函館市で開催された全国高等学校将棋新人戦に出場した羽仁豊(高2)は、予選リーグを3勝1敗で、決勝トーナメントに進むが、初戦で敗退。ベスト32だった。なお、羽仁君は昨年の全国総合文化祭長崎大会将棋部門に出場。見事、男子

総体に向けて体力・技術・精神力を高めていきたい。

中女子ソフトテニス部 冬休み以降に各種の大会に参加し、他地区の中学校と対戦することで、ペアごとの技術とチーム力の向上を図っている。

高男子ソフトテニス部 1月25日・26日には、シングルの講習会とハイスクールジャパンカップの県代表選考会がおこなわれ、本校からは県新人戦でベスト32に残った竹内・藤井が参加した。県のトップレベルの選手と交流して技術を高めた。2月1日に岡山県技術等級ソフトテニス大会がおこなわれた。備前テニスセンターでの中級には県大会出場経験のある2ペアが出場したが、予選リーグで敗退した。浦安総合公園での初級には3ペアが出場し、そのうち山本・三宅組がベスト32まで進出した。

高女子ソフトテニス部 2月1日に浦安総合テニスコートで行われた岡山県技術等級ソフトテニス大会に4ペアが出場した。3ペアは初戦敗退したが、1ペアは1回戦を勝ち上がった。

中卓球部 11月16～17日に総社市長杯に参加した。男子団体では、予選で3位で

個人戦第3位となったことが評価され、平成25年度岡山県学校文化関係表彰の被表彰者として、2月3日に県庁で表彰された。

科学部 冬休みに坪井先生にご助言をいただきながら、4日間集中して実験を行った。また、葉脈標本の作製に取り掛かると共に、全国一斉水質調査のまとめや、色の研究についての英語化を行った。

軽音楽部 部員は現在16名。活動形態は週1回各バンドで練習している。

文芸部 12月には今年度4冊目となる習作集を作製し、批評会を行った。また、卒業式に際しても作品集を作製して5人の卒業生に贈っている。

ダンス部 平成26年2月21日ほつま体育館3F練習場で、16時30分から「ダンス部ミニ発表会」というタイトルで、中1から高1まで、各学年ごとに1分くらいの、ミニ作品を創作し発表した。

中・高陸上競技部 12月25～28日まで徳島県ポカリスウェットスタジアムで行われたU・17中国四国地区選抜合宿に徳原真奈美と清水沙紀が選出され参加した。

1月26日に百間川ランニングコースで行われた第3回晴れの国おかやま駅伝に

あった。女子団体では、予選を1位で通過し、準々決勝でTFとみやまに3―1で勝ち、準決勝で平田に0―3で敗れたが、3位に入賞した。女子個人で内山(中2)がベスト8に入った。

12月25日に全国中学選抜県予選会に参加した。男子団体では予選を2勝2敗であった。女子団体では予選を1位で通過し、決勝リーグで長船に3―1、就実に0―3、中道に2―3で1勝2敗でベスト8に入った。

1月12日に井原会長杯に参加した。男子団体では予選を2位で通過し、決勝トーナメント1回戦で琴浦Aに0―3で敗れた。女子団体では予選を1位で通過し、決勝トーナメント1回戦でD・ドゥリームに3―1で勝ち、準決勝で道林寺クラブに0―3で敗れたが3位に入賞した。

1月12日にニッタク杯争奪笠岡市大会に参加した。女子団体で決勝リーグで3戦し、優勝した。

1月25日に県中学校加盟団体に参加した。男子団体では予選を5位であった。女子団体では予選を1位で通過し、決勝トーナメント1回戦で東陽に3―1で勝

田頭操真と村上萌実が浅口市代表選手として参加した。

ラグビー部 12月21日から美作市長杯ラグビーフットボール大会に参加。1回戦は一宮高校に62―0で勝つも、翌日のプレート決勝戦は岡山工業に17―19と終了間際で逆転負けを喫した。平成26年1月3日には正三会を実施。多くの卒業生から暖かい応援とカンパをいただいた。1月12日からは新人戦がスタート。1回戦は合同B(津山高専・林野・鴨方高校)に38―26で勝つも、2回戦は玉島高校に17―27、敗者戦ではまたも岡山工業に24―29と2試合続けて後半での逆転負けとなった。

中男子ソフトテニス部 11月16日に井原運動公園庭球場にて第16回チャレンジカップ備南西地区中学生ソフトテニス大会に、中1・2の11ペアが参加した。I部で佐藤・大出ペアが準優勝、樋口・福嶋ペアがベスト8に入った。他のペアは4回戦までに敗退した。11月23日・24日には佐藤・大出ペアが備前テニスセンターで行われた岡山県中学生ジュニア強化研修会に参加し、高いレベルでの試合を経験した。冬は大会が少ないが、夏季

ち、準々決勝で操南に3―2で勝ち、準決勝で富山に1―3で敗れたが3位に入賞した。

高卓球部 11月16・17日に国際クラス別選手権に井上(高3)が出場し、男子個人(クラス7)で全国優勝を果たし、日本代表入りを決めた。男子ダブルス(クラス6・8)でも3位に入賞した。

11月23日に笠岡市文化スポーツ振興財団杯に参加した。男子ダブルスでは中務(高2)・平岡(高2)組が優勝した。男子個人では井上(高2)が3位に入賞、平岡がベスト8に入った。女子個人では笠原(高2)がベスト8に入った。

12月25日に県高校新人大会(学校対抗・複の部)に出場した。男子学校対抗では明誠学院に3―0、新見に3―0、岡山東商に3―2、岡山芳泉に3―2で勝ち、準決勝で倉敷工に0―3で敗れたが、3位決定戦で岡山操山に3―2で勝ち、3位で中国大会出場を決めた。女子学校対抗では倉敷商に3―1、倉敷南に3―0で勝ち、準々決勝で倉敷青陵に1―3で敗れたが、順位リーグで後楽館に3―2で勝ち、岡山操山に3―2で勝ち、玉島商に2―3で敗れたが、6位で中国大会

の出場を決めた。男子ダブルスでは中務・平岡組がベスト16に入った。女子ダブルスでは遠藤（高2）・児嶋（高1）組がベスト16に入った。

1月12日にニッタク杯争奪笠岡市大会に参加した。男子団体では決勝で倉敷天城に2-0で勝ち、優勝した女子団体ではベスト4に入った。

1月25日に県高校新人大会（個の部）に出場した。男子個人では中務がベスト16、西岡（高2）と中嶋（高1）がベスト32に入った。

1月31日、2月2日に全国高校選抜中国地区予選会（山口）に出場した。男子団体では予選で岩国に3-2で勝ち、出雲北陵に0-3で敗れて予選2位であった。女子団体では予選で八頭に2-3で敗れ、進徳女子に0-3で敗れて予選3位であった。

中野球部 11月16日・17日に玉島の森野球場などで行われた第14回玉浅良寛杯では、一回戦玉島北中に1-1特別延長の末2-1で勝利し、二回戦玉島東中に6-3で逆転勝ち、準決勝は船穂中に0-0特別延長の末2-1で勝利し、決勝は里庄中に3-2で勝利し、2年連続9度

目の優勝を果たした。大会を通じて最優秀選手賞を2年の山下駿くんが、打撃賞を1年の楠和真くんがそれぞれ獲得した。

また、12月27日・28日に高知県で行われた第10回よさこいリーグに参加し、福岡県選抜に3-1、高知県西部中に1-0、8-2、福岡県立仁中に3-0、高知県横浜中に4-0で勝利し、10回目の参加にして初めて全勝することができた。

高野球部 1月3日には、新年の練習はじめてとして、毎年恒例である本部参拝を行いました。

冬の厳しい強化期間には、食べる合宿や栄養講義を受けるなど、体作りに本気で取り組み、例年以上にたくましい体にならなっています。

中サッカー部 12月15日に行われた、浅口ライオンズ杯において、対高梁中（0-1）、対倉敷西中（0-1）、対芳泉中（4-0）。12月25日・26日に行われた、百間川サッカー大会において、対和氣中（2-0）、対備前中（2-0）、対吉備中（2-1）、対瀬戸中（0-3）、対牛窓中（1-3）という結果になった。

浅口ライオンズ杯より、全員でサッカーをする中で、岡山県一位を目標に頑

張っている。その他、練習試合は7勝2敗4分けという結果である。

現在まで40試合を行い、22勝13敗5分け、総得点は78点で総失点は37点。

高サッカー部 高田宮杯U-18サッカーリーグにおいて、11月17日、対林野（0-2）、11月23日、対水島工業B（2-1）、11月24日、対倉敷南（0-1）。新人大会備中区予選会一次リーグでは、12月21日、対総社（0-3）、12月22日、対天城（2-3）、12月23日、対倉敷（2-0）。練習試合を12月27日に、笠岡工業と行った。1月2日のOB戦では、各年代チーム総勢58名の参加があり、初蹴りを皆で楽しんだ。新人大会備中区予選会代表決定トーナメントでは、1月11日に総社南と対戦し（3-0）、1月12日に青陵と対戦し（0-6）で、惜しくも県大会出場を逃した。練習試合を2月2日にアクトと行い、（2-4）等という結果であった。

中柔道部 12月1日第3回中国女子柔道大会に岡山県選抜チームの選手として中3江草ひな子が出場し中国地区で第2位となった。

高柔道部 1月18日・19日に岡山武道館

で行われた第36回全国高校柔道選手権大会岡山県予選会に出場し、男子団体戦では1回戦で理大付属高校と対戦し相手の3人残して敗退した。個人戦では高2石井・西井が73kg級に出場しそれぞれ2回戦敗退であった。

中高柔道部 1月3日には初稽古を行った。初稽古にはOBの先輩や保護者の方の参加もいただき、それぞれ目標を持ち新年のスタートを切った。

1月15日に、岡山大学で行われた井上康生選手の講習会に参加させていただいた。井上選手に内股や大外刈など直接教えていただき、さらに乱取りもさせていただいた。世界のトップの技に触れる貴重な経験をさせていただいた。

中高剣道部 1月2日に、奉祝教祖様ご生誕200年、金光学園創立120年、剣道部創部110年の年にあたり、心より祝意をあらわし、ささやかではあります。標記の記念新年稽古会（稽古始めとOB・OG会）を開催し、諸先輩方と竹刀を交えて快い汗を流し、交流を深めた。

14日から18日まで、同じく標記の記念寒稽古を実施した。日名、細川（中1）、平川、松本（中2）、三木佳苗、中村（高1）

の6名が皆勤であった。18日午後より納会にて表彰、ぜんざいをいただき、参加者の健闘をたたえた。

中剣道部 1月25日、第35回1・2年生大会が山陽町ふれあい公園体育館で開催され、二回戦で石井中学に0対4で敗れた。

中男子バスケットボール部 ALL OKAYAMA WINTER CAPが行われ、6チームリーグでのハーフゲームを行い、4位になった。今大会を通じて、夏の大会までに力を入れて取り組む課題を体験できるよい機会となった。1月には、玉島・浅口・笠岡バスケットボール大会が行われ、1日目を4チーム総当たり戦で行い、2位で2日目の上位リーグに進出した。2日目は真備中学校に敗れ、決勝進出はできなかったが、自分たちが練習したプレーができた。

中女子バスケットボール部 12月15日に第17回OLL OKAYAMA WINTER CUP 1次リーグが岡山市立吉備中学校で行われた。5チームでのリーグ戦が行われ、和気15-32学園、津山東30-5学園、新田14-30学園、倉敷東42-12学園の2勝2敗となりリーグ3位。

1月12日・13日に玉島・浅口・笠岡地区大会が行われた。12日は、4チームでのリーグ戦で行われ、学園34-19玉島西、学園35-10矢掛、学園30-13真備となり、リーグ1位通過で2日目へ。2日目、学園47-26玉島東、学園27-32真備東で、準優勝することができた。

これからの課題が見つかり、チーム一丸となり県大会に向けて練習に励んでいる。

高男子バスケットボール部 11月16日、24日にかけて行われた、新人優勝大会備中区予選会に参加した。一回戦、笠岡に57-38で勝ったが、二回戦、倉敷古城池に82-33で敗れ、敗者復活トーナメントにまわる。敗者復活トーナメント一回戦、総社に55-27、二回戦、高梁に48-46で勝ち、トーナメント決勝戦で、県大会出場をかけた、総社南と対戦した。前半30-11でリードしたものの、最終的には56-53で惜敗した。悔しい試合となったが、春季大会に向けて決意を新たにしたい。

冬休みに入り、12月21日・22日に、玉島浅口笠岡地区新人大会が行われた。予選リーグは玉島商業、笠岡商業に勝ち、決勝リーグに進出した。決勝リーグ一試合目は笠岡工業と対戦し勝ったものの、

二試合目で岡山龍谷に敗れ、二位となった。その夜、保護者・部員合わせて約30名が集まって懇親会が行われた。

12月25日・26日と香川県に遠征した。香川県大会2位の丸亀高校やベスト8の高松中央高校など強豪校と対戦し、たくさんのお話を学んだ。

1月12日に、新年親睦会が行われた。保護者の方が、豚汁・お餅・おにぎり・焼き芋などを用意してください。午前中の練習後、おいしくいただきました。新年の決意を寄せ書きし、部員の士気も高まった。4月初旬には、兵庫県への遠征も計画している。

高女子バスケットボール部 12月21日・22日に行われた玉島・浅口・笠岡地区バスケットボール大会に出場した。高2がチームの中心となっている他校に対し、高1中心のチームであるなか大変健闘した。予選リーグでは笠岡高校に負け、岡山龍谷に勝ったが、決勝リーグ進出はできなかった。2日目のリーグでは、おかやま山陽と対戦した。前回の新人戦では差をつけられ負けしたが、今回は延長戦まで持ち込み、粘りを見せた。しかし惜しくもワンゴール差で負けた。

中男子バレーボール部 来年度も全国大会を目標にがんばりたい。

中女子バレーボール部 1月25日に行われた春の中学校バレーボール大会の地区予選において、鴨方中学校と対戦し、1回戦で敗れた。その後、敗者戦に臨み、木之子中学校に負けはしたものの善戦した。部員数6名で持てる力を発揮した。

高男子バレーボール部 12月22日・23日に行われた新大会備中予選において決勝で倉敷商業に勝ち、優勝し県大会のシード権を得た。12月22日・24日の中国私学大会でも決勝で関西高校に勝ち優勝。4月に行われる前項私学大会への出場権を獲得。1月18日・2月1日に行われた岡山県新大会では、2回戦 高梁城南、準々決勝 関西にストレートで勝ち、ベスト4リーグ戦へ進んだ。玉野光南にフルセットで負けたが、倉敷商業・岡山東商業にストレートで勝ち、準優勝で終わった。この結果、中国新大会への出場権を得ることができた。

少林寺拳法部 高体連の主催する12月22日の中高合同練習会や2月11日の練習会に参加し、他校の生徒と共に練習を行い交流を深めた。また、少林寺拳法連盟本

会報

第5回評議員会 2月20日 13時30分

。楠戸副会長司会。内容は以下のとおり。一、中谷会長挨拶。二、協議事項。①平成26年度会長・副会長・監事選考について。選考委員が次のように選出された。選考委員長、川崎裕子。選考委員、平谷由美子・森本淳子・仙石正恵・塚村直美・河野園子。②金光学園創立120年記念事業「120記念館」の寄付について、会長より提案があり、承認された。③友愛セール収益金の使途について、現在は未定。④平成26年度総会について、4月27日(日)開催が決定。講演の講師が北野大先生(淑徳大教授)に決定したことが報告された。

第3回全役員会 2月20日 14時20分

。開会に先立って、平成25年12月2日に桜田辰哉様、12月31日に檀上満昭様のご逝去され、黙祷を捧げた。役員会の内容は以下のとおり。一、中谷会長挨拶。二、

校長挨拶。三、学校近況報告。(横山教頭)四、協議・報告事項。①研修・出張報告。②平成25年度会計決算見込み報告。③平成26年度三役選出の選考委員選出の報告。④「120年記念事業」の寄付について、会長より説明があり、評議員会で承認されたこと報告があった。⑤平成26年度総会について日程、講師について報告された。⑥友愛セール収益金の使途について報告された。⑦地区委員・評議員選出について、役員数の確認。⑧金光教春の大祭の湯茶接待奉仕のお願い。⑨教職員外部診断のお願い。最後に、往田副会長による閉会挨拶。

諸会合

- 1月17日 幼少中高PTA連合研修大会(岡山) 小川・楠戸副会長、中嶋・宮口監事、佐藤事務局長、横山・山本教頭が参加。
- 2月7日 学校保険員会(校内) 平谷指導部長が出席。
- 2月8日 浅口里庄第3回母親委員会(鴨方) 楠戸副会長、宮口監事が参加。
- 2月15日 創立120年記念事業推進委員会(校内) 中谷会長、往田副会長が出席。

部より取材依頼があり、会報少林寺拳法2月号のクラブ探訪に本校が取り上げられた。部員それぞれ選抜大会・昇級・昇段試験という目標を持って活動した。

社会問題同好会 2月8日、今年度最後の県全体の行事であり、高3の生徒にとっては社研活動の卒業式でもある岡山県委員会に出席を予定していたが、大雪のため残念ながら中止となってしまった。

家庭科同好会 来年度のほつま祭で作品の展示を行うことを目標に、週2回、刺しゅうや洋裁など、各部門が興味のあることにそれぞれ取り組み、作品の完成をめざしている。

バトミントン同好会 2月1日に行われた平成25年度岡山県高等学校バドミントン競技新人大会に、高2岩崎・藤原組と大島・加藤組が出場した。岩崎・藤原組は3回戦に進出、大島・加藤組は2回戦に進出した。来年度行われる最後の大会に向けて、さらなる課題を得た大会であった。

○2月22日市青少年育成活動研修会(鴨方) 往田・楠戸副会長、中嶋・宮口監事、浅井、川崎、相原、藤原、有馬・佐藤洋生活課長が参加した。

学園だより

進路委員会 12月6日、高3では生徒の志望校について詳しく検討し、受験を控えてより良い指導ができるよう話し合った。9日に高1で、10日に高2でそれぞれに行い、現在の学力分析を基に今後の指導方針を検討した。

個別面談 中高の全クラスで、個別に2者あるいは3者で行った。中学校では、2学期を振り返り冬休みの過ごし方について、高1や高2では進路を見据えての教科選択について、高3では進路委員会の結果を基に受験大学について相談した。

終業式 12月21日、2学期終業式が高合同で行われた。

中学入学試験 1月5日、342名が志願していた中学入学試験が行われた。8日に合格発表が行われた。専願合格者は15日までに、併願合格者は2月12日までに手続きを完了した。2月16日には、入学まで

の指導や制服の採寸のための招集があった。

始業式 1月8日、3学期始業式が高合同で行われた。校長式辞・高3生徒(牧野 亨哉)の決意表明・生活課よりの諸注意があった。また、ハンガリーからの留学生グレタさんが1年の留学を終了し、お別れの言葉を述べた。

街頭交通指導 1月8日から3月19日まで教員が通学路に立ち、交通安全や通学マナーについての指導を行った。

高1進路講演 1月17日、高1は福岡県弁護士会所属の塩澄哲也氏より進路に向けての講話を頂いた。

中学生徒会長選挙 1月21日に行われた来年度の中学会長選挙の結果、会長には2年の堀 啓造君が、副会長には2年の澤田 夕珠姫さんと1年の中原 悠志君が選ばれた。

センター試験 1月18・19日に実施された

大学入試センター試験には、高3生徒169名が出願し、倉敷芸術科学大学で受験した。

A F S 留学生 1月末



でグレタ・アダムさんが1年の留学期間を終了した。1月31日にはHRの時間に高1学年団がお別れ会を主催した。学校の送別会も2月5日に行われ8日に帰国の途に就いた。

イギリス短期語学研修 第3回イギリス語学研修に向けて昨年12月から2月21日にかけて12回、校内で事前指導を行った。

進路委員会 1月25日、高3ではセンター試験の自己採点の結果を基に、2次試験に向けての出願を検討した。その後、個人面談を実施し生徒は出願した。

進路学習 1月28日、中2は16分野にわたる様々な職業の方からグループ毎にお話を聞き、働くことの意義・楽しさ・苦労などを学び、これからの進路を考えることに役立てた。

2月7日、中3は高校入学後の教科選択の説明を聞き、それを基に進路を考え、教科選択票を提出した。

高校入学試験 2月4日、推薦入試(専願)と一般入試(専願・併願)が同時に行われ、それぞれに3名、116名の中学生が志願した。2月6日に、それぞれの保護者宛に選考の結果が通知され、専願合格者は14日までに手続きを終え、16日の

招集日に入学までの諸連絡を聞いた。進路調整のためのスクーリングを、それ以後の日曜日と春休みに合わせて10日間受講した。併願合格者は、3月20日の招集日に手続きを完了し、それ以後に10日間のスクーリングを受講した。

美術館見学 2月5日、中3は美術の授業の一環として、総合学習として、事前学習の後に倉敷美観地区の大原美術館・民芸館・自然史博物館などへ行き、古今東西の有名な美術品を鑑賞した。

学校保健委員会 2月7日、校医、やつなみ保護者会、教職員、生徒会の代表で構成される学校保健委員会が開催され、本校の健康実態や保健委員会の活動報告等がなされた。学校医の外間朝夫先生の御指導のもと「エビペンについて」の研修を行った。

合唱コンクール 2月14日、中1が小体育館で合唱コンクールを開催した。各クラス課題曲(COSMOS)と自由曲の2曲を熱唱し団結力を示した。

学年集会 2月19日、中2が浅口市民会館金光で修学旅行事前学習発表を行い、学年の団結を誓い今年度の総括の場とした。

高二芸術選択者発表会 2月15日、音楽選択者は練習の成果を浅口市民会館金光での演奏会で発表し、15日から20日まで、美術・書道・工芸の選択者はそれぞれ作品を校内に展示し発表した。

卒業式 2月28日、第66回高校卒業式が1部は厳かに、2部は和やかに行われ、21名の生徒が学園を巣立った。

◇教主金光様のおことば



本日は、おめでとうございます。どうぞ。今、代表の方がお願いされましたように、これからも学園生活で培われたものを大切に、皆さんそれぞれの進路に向かって、世話になるすべてに礼をいう心をもって進んでいかれますよう、祈つてやみません。

教育相談保護者会

3月5日、5名の保護者が参加し、安原こずえ先生を講師に交流会が行われた。

防災訓練

3月11日、「3・11東日本大震災を忘れない」ために、昨年に続き防災訓練が実施された。地震を想定して

の防災で、中学・高校別々に避難した。全体集合の後、黙祷を捧げ、校長の話を伺った。

探究I課題研究中間発表会・SSH「国際化」の取組についての発表会 3月8日、高一探究クラス、高2探究理系のクラスおよび科学系部活動を中心にこれまで取り組んできた途中経過の報告とポスター発表を行った。外部からの参加校は8校、参加生徒数47名に上った。

お祝い 細川教諭には1月6日に長女のご誕生、お慶び申し上げます。

お悔やみ 高3の壇上優人さんの御尊父には12月31日にご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

教室の窓から

「走れメロス」は走っていないなかった!?

そんな言葉が目飛び込んできた。「メロス」走る」を常識として疑わなかった私にとって、衝撃的な言葉である。ヤブーのトップ画面に表示されるニュースの見出しだ。

何でも、理数教育研究所が開催した「算数・数学の自由研究」作品コンクール」に入賞した「メロスの全力を検証」という研究結果がとても興味深いとのこと。中学2年生の男子によるこの検証では、太宰治の小説「走れメロス」の記述を頼りにメロスの平均移動速度を算出。その結果、「メロスはまったく全力で走っていない」という考察に行き着く。

メロスは作中、自分の身代わりとなった友人を救うため、王から言い渡された3日間の猶予のうち初日と最終日を使って10里（約39キロ）の道を往復する。今回の研究ではこの道りにかかった時間を文章から推測した。復路の日、メロスは「薄明のころ」目覚めて「悠々と身支度」をして出発し、日没ギリギリにゴールである刑場へ突入する。舞台となっているイタリア南端は、北緯38度付近で夏至の日の出がだいたい午前4時、日の入がだいたい午後7時と目星をつけ、考察を開始。復路では途中、激流の川渡りや山賊との戦いといった

アクシデントがあり、これらのタイムロスも勘案してメロスの移動速度を算出している。

その結果、野や森を進んだ復路前半は時速27キロで大人が歩く速さ、山賊との戦い後、死力を振りしほって走ったとされるラストスパートも時速53キロと、早歩き程度。思った以上に「ゆっくり」な移動速度が算出されてしまった。ちなみに、フルマラソンの一般男性の平均時速は九キロだそうだが。当時の道路状況など、もっといろいろな足止め要素を考慮する必要があるかもしれない。発表者の中学2年生は、「走れメロス」よりも「走れよメロス」の方が合っているなど思いました」と感想を述べており、思わず笑ってしまいました。

もちろん、メロスの走りが意外に遅かったとしても、歯切れの良いリズムで人間の本質を追究した文学作品の味わい深さは変わらない。それよりも、「国語」の教科書で学ぶ小説を、「数学」的に計算してみようと考えた中学2年生の発想の柔軟さ、「文系」だから数学は捨てて…などと考えていた頃の私に喝を入れたくなる。「文系」「理系」の枠にとらわれず、受験科目にもとらわれず、知識を柔軟に吸収し考える姿勢が、新たな発見を生むのだろう。

「受験のために、早くから科目をしぼってしまっなんてもったいない。学校で教えてもらえらううちに貪欲に吸収しよう。今は大変かもしれないが、いつか点と点がつながり、役に立つ時がある」生徒にそう伝えたいくなるニュースであった。

編集後記

今年の卒業生は24名であった。卒業間際まで自分の進路に向かって必死に受験勉強に取り組みむ。そのような真剣な姿を図書室で見かけることも多々あった。また、この短い一年間で多読者の表彰を卒業前に行ったが、最多読者の冊数は266冊であった。読書を行うには厳しい、受験生という環境の中で触れた喜びは大いに彼らの心を成長させたことだろう。この「今」の時間を大切に！という思いが詰まった作家アリス・モル・アールの言葉が浮かんだ。

The clock is running. Make the most of today. Time waits for no man. Yesterday is history. Tomorrow is a mystery. Today is a gift. That's why it is called the present.

「今、現在の一瞬がすてきなプレゼント」である。現在の積み重ねが過去を形成し、その一瞬一瞬を重ねることで未来へと繋がる。

卒業生たちが進学後も大いに読書に励み、探究心を深め、社会に貢献できる人に成長されることを願って筆を置く。

平成26年3月10日印刷
3月14日発行

編集者

金光学園やつなみ保護者会

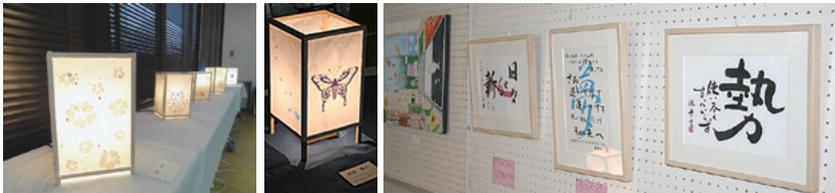
印刷所

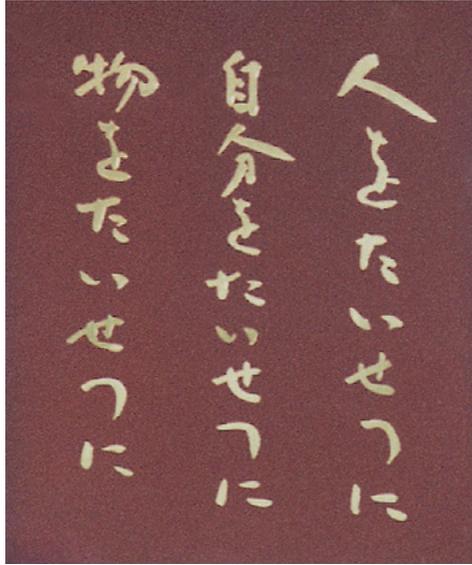
倉敷市船穂町船穂二〇九五一―一
玉島活版所

発行所

浅口市金光町占見新田一三五〇
金光学園内
金光学園やつなみ保護者会

高2 芸術選択者発表会





◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

.....
◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<http://www.konkougakuen.net>

E-mail info@konkougakuen.net